

高知県埋蔵文化財センター年報

第27号

2017年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

高知県埋蔵文化財センター年報

第27号

2017年度

公益財団法人 高知県文化財団
埋蔵文化財センター

序

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは大規模な開発に対応する円滑な発掘調査事業の推進とともに高知県から指定管理者として委託を受け、高知県立埋蔵文化財センターの施設並びに出土文化財の管理及び普及教育事業を行っています。

平成29年度の発掘調査受託事業は発掘調査が4件、整理作業が5件で、国事業では南国芸道道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査と整理業務、県事業では都市計画道路高知南国線建設と保健衛生総合庁舎建築に伴う埋蔵文化財発掘調査と整理業務が実施されました。

指定管理事業では公開展示、公開講座、出前考古学教室などを実施しています。公開展示では当埋蔵文化財センターで3回、館外で1回の展示を行い、計4,106人の方が来場され、公開講座では年75回開催しました。企画展等の展示会では分かりやすい展示に努めるとともに、企画展示にあわせたフィールドワークも併せて実施しています。出前考古学教室は県内の小学校を中心に76校に出向き、計2,569人の児童を対象に実施しました。

また、当埋蔵文化財センターがある南国市域の方々を中心に勾玉づくりや銅鏡づくり、火起こしなどを埋蔵文化財センターで実施する「まいぶんセンターまつり」を昨年度に引き続き開催し、当日は親子連れなど284名の参加があり、平成29年度の当埋蔵文化財センター来館者は3,884人となっています。

そのほか、年間行事カレンダーの作成やホームページの更新を随時行うなど利用者の便を図るとともに高知県文化財団として「ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ」への参加など当センターに親しんで頂けるよう努めました。

今後、発掘調査事業の縮小が予測されますが、これまでの成果をより多くの県民の方に伝える普及教育事業をさらに推進し、県民文化の振興に資する施設と同時に土佐のいにしえを紐解く場所にしていきたいと思っております。

これからも皆様のご協力とご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年11月

公益財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター
所 長 松田 直則

例言

- 1.本書は公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターの平成 29(2017)年度事業の概要をまとめたものである。
- 2.「Ⅲの2の(1)～(8)」及び「Ⅳ」は担当が中心となって執筆し、下村が取りまとめ編集した。それ以外は下村が執筆、編集した。

本文目次

I 公益財団法人高知県文化財団	1	1. 発掘調査受託事業	7
1. 公益財団法人高知県文化財団の概要	1	(1) 発掘調査事業	9
(1) 設立趣旨	1	(2) 整理事業	9
(2) 目的等	1	2. 指定管理事業	11
(3) 設立年月日	1	(1) 公開展示	12
(4) 名称変更年月日	1	(2) 公開講座等	13
(5) 事務局所在地	1	(3) 情報公開等	19
2. 公益財団法人高知県文化財団の組織	2	(4) 出前考古学教室	23
(1) 財団組織	2	(5) 研修事業	27
(2) 財団役員	2	(6) 講師等職員の派遣	28
II 埋蔵文化財センター	3	(7) 遺物の再整理事業等	28
1. 埋蔵文化財センターの概要	3	(8) その他	29
(1) 設立趣旨	3	IV 各遺跡の発掘調査概要	31
(2) 事業内容	3	1. 東野遠山遺跡(17-2KHT)	31
(3) 設立年月日	3	2. 高田遺跡(17-3KT)	32
(4) 埋蔵文化財センター所在地	3	3. 若宮ノ東遺跡(17-1NW)	33
2. 埋蔵文化財センターの組織	3	4. 高知城跡北曲輪(17-4KK)	34
(1) 埋蔵文化財センターの組織図	3	V 条例・規則等	35
3. 埋蔵文化財センターの施設	5	1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理 に関する条例	35
4. 利用方法等について	6	2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理 に関する条例施行規則	39
(1) センターの利用	6	3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の 指定	40
(2) 利用時間	6		
(3) 休館日	6		
(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先	6		
III 年間事業の概要	7		

表目次

表1 高知県文化財団評議員	2	表8 公開講座参加者数	14
表2 高知県文化財団役員	2	表9 平成29年度公開講座1	15
表3 平成29年度高知県埋蔵文化財センター職員 一覧	4	表10 平成29年度考古学講座 (考古学からわかる歴史教室)	16
表4 発掘調査推移表	7	表11 平成29年度遺跡解説会(遺跡解説会)	16
表5 平成29年度発掘調査受託事業(発掘調査遺跡) 一覧	8	表12 平成29年度公開講座2(親子考古学教室)	17
表6 平成29年度受託整理事業(整理遺跡)一覧	9	表13 平成29年度物品・遺物(県有物)貸出一覧1	20
表7 入館者推移表と平成29年度の入館者	11	表14 平成29年度物品・遺物(県有物)貸出一覧2	21
		表15 平成29年度施設見学者一覧	22

表16 平成10～29年度出前考古学教室実績一覧..... 22	実施数) 25
表17 平成29年度出前考古学教室前期実績一覧(授業 実施数)1 24	表20 平成29年度職員専門研修 28
表18 平成29年度出前考古学教室前期実績一覧(授業 実施数)2 25	表21 平成29年度埋蔵文化財担当者研修 28
表19 平成29年度出前考古学教室後期実績一覧(授業	表22 平成29年度職員自主企画研修 28
	表23 平成29年度講師派遣・調査指導等実績一覧... 29
	表24 平成29年度会議等参加者一覧 29

図目次

図1 高知県文化財団組織図..... 2	図6 平成29年度受託事業発掘調査位置図..... 8
図2 高知県埋蔵文化財センター組織図..... 3	図7 平成29年度受託事業整理作業位置図..... 10
図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図 (S=1/800) 5	図8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合 16
図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図 (S=1/800) 6	図9 東野遠山遺跡位置図..... 31
図5 発掘調査受託事業推移グラフ..... 7	図10 高田遺跡位置図..... 32
	図11 若宮ノ東遺跡位置図..... 33
	図12 高知城跡北曲輪位置図 34

写真目次

写真1 年間行事カレンダー 11	写真12 展示解説..... 25
写真2 企画展ポスター 12	写真13 火起こし..... 26
写真3 巡回展ポスター 12	写真14 勾玉づくり 26
写真4 特別展ポスター 13	写真15 職員専門研修..... 28
写真5 移動展ポスター 13	写真16 ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ..... 30
写真6 親子考古学教室ポスター 17	写真17 遺構完掘状態..... 31
写真7 まいぶんセンターまつり(会場) 18	写真18 遺構完掘状態..... 32
写真8 まいぶんセンターまつり(展示) 18	写真19 遺構完掘状態..... 33
写真9 まいぶんセンターまつり(編布づくり) 19	写真20 遺構完掘状態..... 34
写真10 ホームページ..... 19	
写真11 考古学授業 23	

I 公益財団法人高知県文化財団

1. 公益財団法人高知県文化財団の概要

(1) 設立趣旨

近年、所得水準の向上や自由時間の増大等を背景に、生活のゆとりを楽しみ、人間らしい生き方を求める、いわゆる生活の質的向上に対する文化的ニーズが急速に高まりつつあり、県民の意識、行動の中に、広く芸術文化に親しみ、歴史と伝統、個性ある文化を再評価すると共に、これらの活動に積極的に参画することに生活の意義を見出し、人間としての充実感を高める、という方向が現われてきている。

このような時代趨勢の中で、県では、平成3年春に歴史民俗資料館、埋蔵文化財センターが発足し、その数年後には美術館が開館する等、県民文化の振興のための施設整備がなされてきた。これらの施設の運営は勿論のこと、県下の芸術文化に係る諸事業が、多様化する県民の文化的ニーズを的確に捉え、県民の期待に応えるかたちでなされることによってこそ、県民の芸術文化への意識が一層高まり、これからの個性豊かな、新しい県民文化が育まれるものである。

このため、県民の総意を汲み、一致協力して、これからの県民文化の振興を図って行くことのできる体制作りが必要であるという認識のもと、ここに高知県と関係諸団体によって、財団法人高知県文化財団を設立し、もって本県の新しい時代の総合的、体系的な芸術文化活動の展開を担う中核的推進母体として役割機能を果たすことにより、広く県民意識を高揚し、県民福祉と県勢の発展に寄与しようとするものである。

(2) 目的等

この法人は、芸術文化の振興及び文化財等の調査研究、収集、保存、活用等を図り、県民の教育、学術及び文化の振興に寄与することを目的とするとともに、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① 音楽、演劇、美術その他の芸術文化振興事業
- ② 文化財等の調査研究、整理保存、展示等の事業
- ③ 委託等を受けた芸術文化施設の管理運営
- ④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3) 設立年月日

平成2年3月28日

(4) 名称変更年月日

平成24年4月1日財団法人高知県文化財団から公益財団法人高知県文化財団へ移行

(5) 事務局所在地

高知県高知市高須353番地2

2. 公益在団法人高知県文化財団の組織

2. 公益財団法人高知県文化財団の組織

(1) 財団組織

① 役員

評議員7名 理事長1名 理事12名 監事2名

② 事務局

総務部長－総務課長－事務職員

③ 組織図

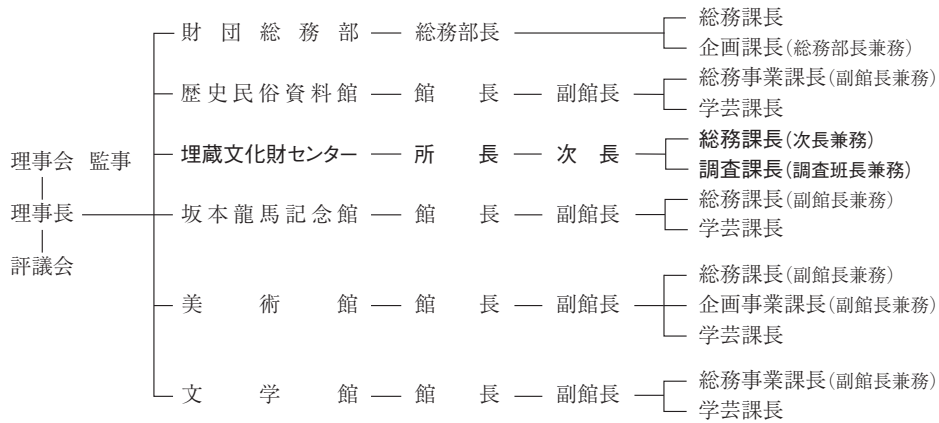


図1 高知県文化財団組織図

(2) 財団役員

表1 高知県文化財団評議員

役員名	氏名	所属役職名	備考
評議員	北村 強	高知県公営企業局長	平成28年6月8日就任
〃	三宮 昌子	(株)高知銀行常務取締役	平成28年6月8日就任
〃	高橋 慎一	高知県文化生活スポーツ部副部長	平成28年6月8日就任
〃	武内 孝幸	高知県町村会事務局長	平成28年6月8日就任
〃	又川 晃世	(株)高知新聞社学芸部長	平成28年6月8日就任
〃	山元 文明	(株)四国銀行取締役頭取	平成28年6月8日就任
〃	弘瀬 優	高知県市長会事務局長	平成29年6月12日就任

平成30年4月1日現在

表2 高知県文化財団役員

役員名	氏名	所属役職名	備考
理事長	浜田 正博		平成28年6月8日就任
理事	池田 洋光	高知県町村会長	平成29年4月1日就任
〃	岡崎 順子	高知県立文学館長	平成28年6月8日就任
〃	岡崎 誠也	高知県市長会長	平成28年6月8日就任
〃	門田 登志和	高知県文化生活スポーツ部長	平成29年4月1日就任
〃	高松 清之	高知県立坂本龍馬記念館長	平成28年4月1日就任
〃	野嶋 佐由美	高知県立大学学長	平成29年4月1日就任
〃	野村 直史	(株)四国銀行取締役会長	平成28年6月8日就任
〃	藤田 直義	高知県立美術館長	平成28年6月8日就任
〃	古谷 純代	高知商工会議所副会頭	平成28年6月8日就任
〃	宮田 速雄	(株)高知新聞社代表取締役社長	平成28年6月8日就任
〃	森下 勝彦	(株)高知銀行代表取締役頭取	平成28年6月8日就任
〃	山本 真壽	染織家	平成28年6月8日就任
監事	内川 新吾	(株)四国銀行地域振興部長	平成29年4月1日就任
〃	廣光 良昭	税理士	平成28年6月8日就任

平成30年4月1日現在

Ⅱ 埋蔵文化財センター

1. 埋蔵文化財センターの概要

(1) 設立趣旨

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターは、高知県における埋蔵文化財の調査研究及び資料の保存管理を行うと共に、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図り、本県の文化振興に寄与することを目的とする。

(2) 事業内容

① 埋蔵文化財の発掘調査

県内における遺跡の発掘調査を実施し、報告書を刊行する。

② 埋蔵文化財の保存管理

発掘調査等による出土遺物、調査記録等の管理及び保管を行う。

③ 埋蔵文化財の研究・普及啓発

埋蔵文化財について調査研究を行うと共に、その成果をもとにした出土遺物の公開展示、現地説明会及び展示会の開催等により、埋蔵文化財愛護思想の普及啓発を図る。

④ 埋蔵文化財に関する資料収集及び情報提供に関すること

⑤ 高知県立埋蔵文化財センターの管理・運営に関すること

(3) 設立年月日

平成3年4月1日

(4) 埋蔵文化財センター所在地

高知県南国市篠原1437-1

2. 埋蔵文化財センターの組織

(1) 埋蔵文化財センターの組織図

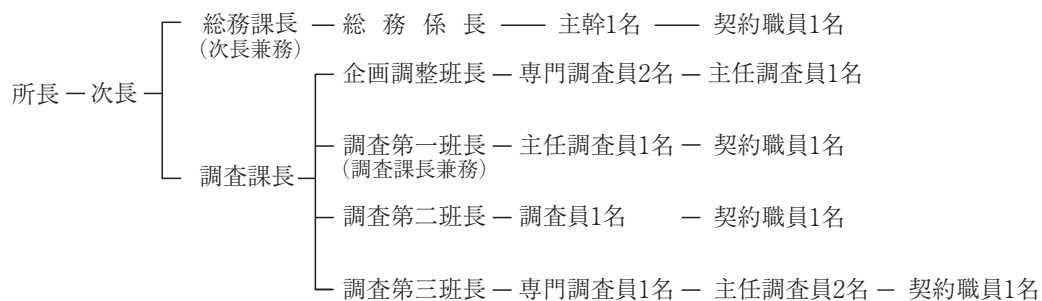


図2 高知県埋蔵文化財センター組織図

2. 埋蔵文化財センターの組織

表3 平成29年度高知県埋蔵文化財センター職員一覧

職 名		氏 名	所 属・派遣元	
所 長		松 田 直 則	(公財)高知県文化財団	
次長(兼総務課長)		和 田 安 弘	県教育委員会文化財課主任(1種)	
総務課	総務課長(兼次長)	和 田 安 弘	〃	
	総務係長	吉 森 和 子	(公財)高知県文化財団	
	主 幹	三 谷 有 紀	県教育委員会文化財課主幹	
	契約職員	奥 宮 千 恵 子	(公財)高知県文化財団	
調査課	調査課長 (兼第一班長)		吉 成 承 三	〃
	企画調整班	企画調整班長	池 澤 俊 幸	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専門調査員	藤 野 明 弘	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		〃	江 間 盛 男	〃
		主任調査員	久 家 隆 芳	(公財)高知県文化財団
	調査第一班	調査第一班長 (兼調査課長)	吉 成 承 三	〃
		主任調査員	徳 平 涼 子	〃
		契約職員	笹 野 女 怜	〃
	調査第二班	調査第二班長	坂 本 憲 昭	〃
		調査員	矢 野 雅 子	〃
		契約職員	廣 内 美 登 利	〃
	調査第三班	調査第三班長	坂 本 裕 一	県教育委員会文化財課主任(4種)
		専門調査員	小 島 義 雄	県教育委員会文化財課主任社会教育主事
		主任調査員	筒 井 三 菜	(公財)高知県文化財団
		〃	下 村 裕	県教育委員会文化財課主幹
		契約職員	谷 幸 絵	(公財)高知県文化財団

3. 埋蔵文化財センターの施設

埋蔵文化財センターの施設は、現在本館、北館、南館、収蔵庫の4棟の建物(図3・4)で構成されており、本館と収蔵庫が平成12・13年度の国庫補助事業、南館が平成4・5年度の国庫補助事業、北館が平成2年度の県単事業として建設されたものである。

平成13年12月4日に落成した本館には、展示・研修室や特別収蔵庫、さらに情報管理室が確保され、調査・研究以外に公報・普及活動にも活用されている。

収蔵管理スペースとして、遺物保管がコンテナケース(W390mm・D590mm・H190mm換算)にして収蔵庫(3層)に30,000箱、南館1Fに4,416箱の計34,416箱、図書・図面保管庫には報告書等の書籍(H297mm・D210mm・W12mm平均として)が100,800冊、A1図面ファイル(H622mm・D442mm・W28mm換算)が3,360冊、A2図面ファイル(H440mm・D315mm・W28mm換算)が10,080冊、写真保管室には写真ファイル(H325mm・D315mm・W35mm換算)が9,472冊収納できるように設計している。

なお、施設の概要は以下のとおりである。

所在地 : 高知県南国市篠原1437-1

敷地面積 : 4,203 m²

建物構造 : 本館・北館・南館 重量鉄骨構造2階建

収蔵庫 : 重量鉄骨構造平屋建(3層積層収蔵棚)

建築面積 : 2,073.93 m²

(本館:615.58m² 北館:259.20m² 南館:574.11m² 収蔵庫:619.40m² プロパン庫:5.64m²)

延床面積 : 4,136.16 m²

(本館:1,038.68m² 北館:518.40m² 南館:1,045.92m² 収蔵庫:1,527.52m² プロパン庫:5.64m²)

事業費 : 650,644,000円(本館・北館・南館・収蔵庫を含む)

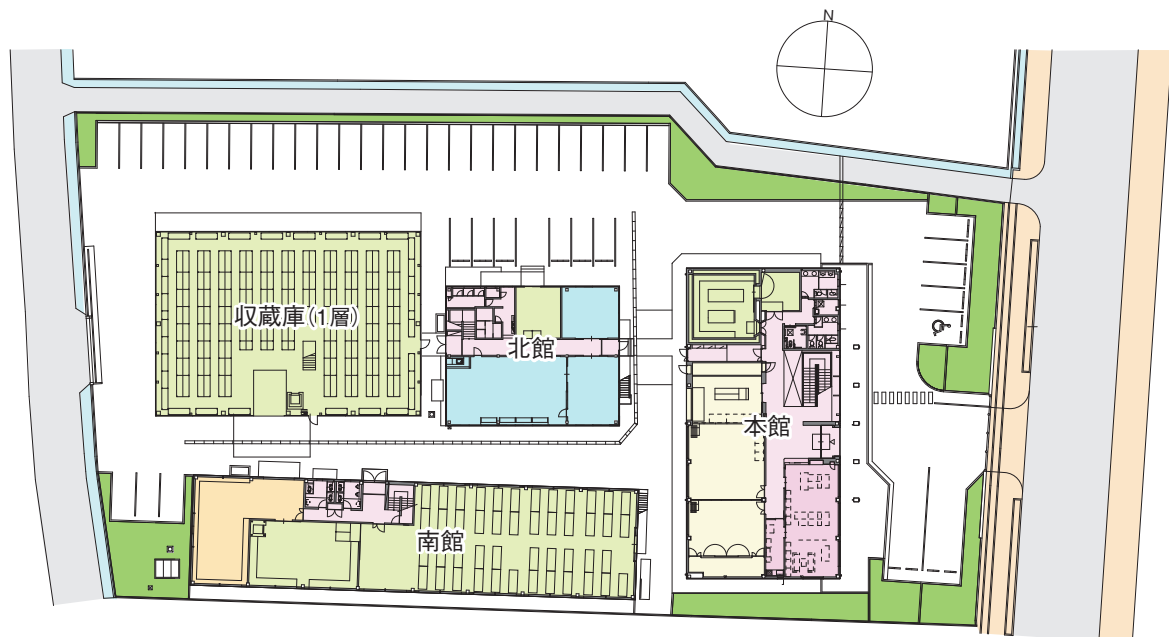


図3 高知県立埋蔵文化財センター敷地と1F平面図(S=1/800)

4. 利用方法について

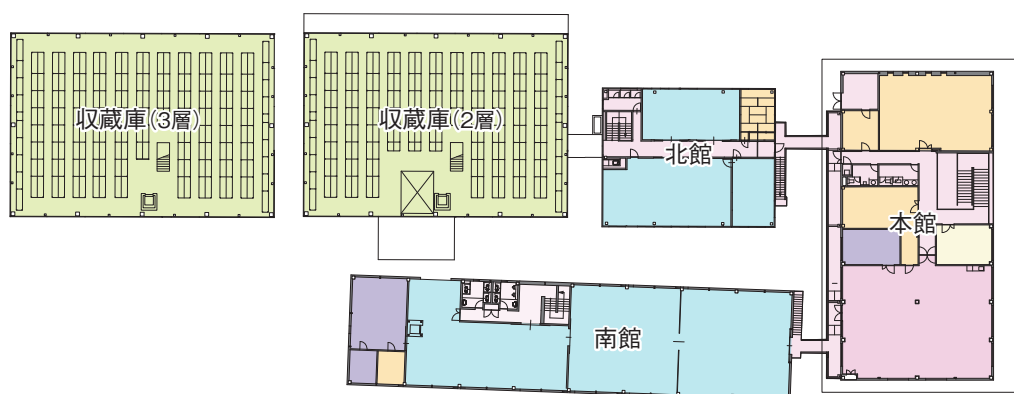


図4 高知県立埋蔵文化財センター2F平面図(S=1/800)

4. 利用方法等について

(1) センターの利用

利用者は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料の観覧、閲覧、撮影又は模写等ができる。

(2) 利用時間

午前8時30分から午後5時まで

(3) 休館日

公開展示期間以外の土・日・祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

(4) 埋蔵文化財センター所在地及び連絡先

住所.....〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1

Tel.....代表(088)864-0671 調査課(088)864-6266

Fax.....代表(088)864-1423 調査課(088)864-6268

Email.....maibun@kochi-bunkazaidan.or.jp

URL.....<https://www.kochi-maibun.jp/>

Ⅲ 年間事業の概要

1. 発掘調査受託事業

平成 29 年度に受託した件数は 3 件で、国土交通省(県教育委員会からの再委託)及び高知県からの委託を受け、南国安芸道路、都市計画道路高知南国線、保健衛生総合庁舎の各建設事業に伴う発掘調査及び整理作業を行い、2冊の発掘調査報告書を公刊した。受託契約事業費は 245,127,600 円で、事業費の内訳は、国関係が 111,801,600 円(46%)、県関係が 133,326,000 円(54%)であった。

発掘調査は、国事業では南国安芸道路建設に伴う東野遠山遺跡(香南市野市町東野)、高田遺跡(香南市野市町下井地区)の発掘調査と、県事業では都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡(南国市篠原)、保健衛生総合庁舎建設に伴う高知城跡北曲輪(高知市丸ノ内)の 4 件の発掘調査が行われた。国事業の南国安芸道路では平成 27 年度から香南のいち IC から高知空港 IC 間の 3.5km について試掘・確認調査の結果を得て香南市野市町下井地区及び東野地区

表 4 発掘調査推移表

年 度	件数	受託面積	年 度	件数	受託面積
平成 3 年度	16 件	25,910 ㎡	平成 17 年度	23 件	58,084 ㎡
平成 4 年度	11 件	14,663 ㎡	平成 18 年度	9 件	38,119 ㎡
平成 5 年度	16 件	17,010 ㎡	平成 19 年度	11 件	41,662 ㎡
平成 6 年度	10 件	28,233 ㎡	平成 20 年度	11 件	53,792 ㎡
平成 7 年度	14 件	28,856 ㎡	平成 21 年度	11 件	34,500 ㎡
平成 8 年度	20 件	90,546 ㎡	平成 22 年度	5 件	29,831 ㎡
平成 9 年度	14 件	93,675 ㎡	平成 23 年度	6 件	42,508 ㎡
平成 10 年度	20 件	111,902 ㎡	平成 24 年度	3 件	34,498 ㎡
平成 11 年度	23 件	41,320 ㎡	平成 25 年度	4 件	4,554 ㎡
平成 12 年度	6 件	27,314 ㎡	平成 26 年度	0 件	0 ㎡
平成 13 年度	31 件	21,853 ㎡	平成 27 年度	3 件	6,950 ㎡
平成 14 年度	28 件	10,488 ㎡	平成 28 年度	3 件	8,647 ㎡
平成 15 年度	17 件	6,052 ㎡	平成 29 年度	4 件	10,010 ㎡
平成 16 年度	16 件	34,285 ㎡	合 計	335 件	915,262 ㎡

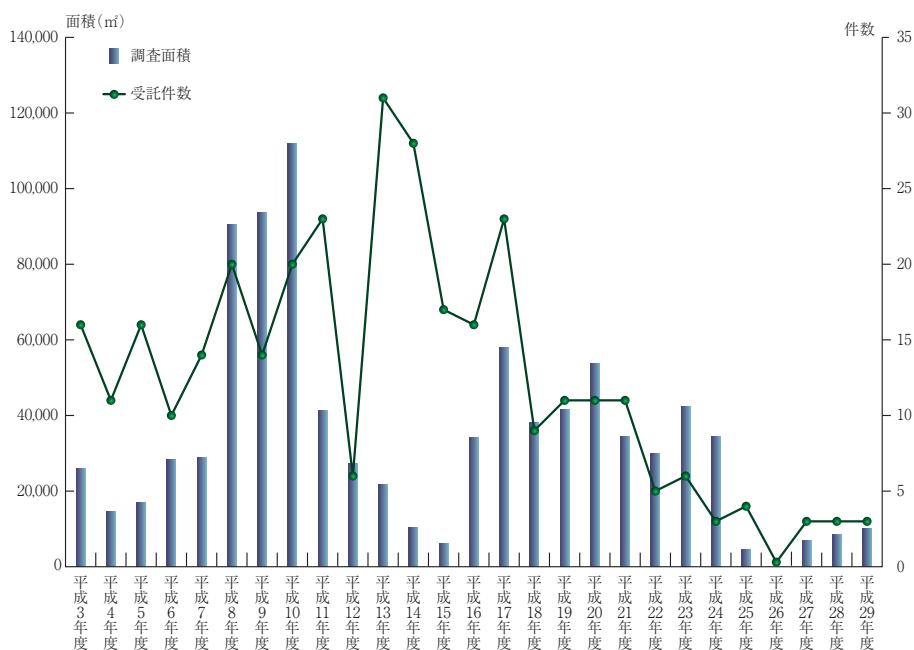


図 5 発掘調査受託事業推移グラフ

1. 発掘調査受託事業

の本調査が実施されている。また、整理業務は国事業である南国安芸道路の東野土居遺跡Ⅳ、宇賀遺跡・高田遺跡Ⅰの発掘調査報告書を公刊した。

埋蔵文化財センターの体制(図2, 表3)は、正職員 13 名(嘱託職員と契約職員を含めると20名)であった。内訳は考古専門職員が 8 名(県派遣1名, 財団職員5名, 嘱託職員2名), 県派遣の事務職員が 2 名, 派遣教員が 5 名, 財団事務職員(嘱託職員)1 名, 財団契約職員(事務補助)が 4 名である。組織構成は所長, 次長の下に総務課と調査課を置き, 総務課は総務課長(次長兼務)1 名, 総務係長 1 名, 主幹 1 名, 契約職員 1 名, 調査課は調査課長が第一班長と兼務しており, 発掘調査事業を行う調査第一班から調査第三班を配

表5 平成29年度発掘調査受託事業(発掘調査遺跡)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	調査面積	調査期間	事業者	原因	委託者
1	若宮ノ東遺跡	17-1NW	南国市篠原	弥生 ～ 近世	集落跡	2,710㎡	H29.4.15 ～ H29.12.26	高知県	道路	高知県
2	東野遠山遺跡	17-2KHT	香南市野市町東野	古代 ～ 近世	〃	4,500㎡	H29.5.1 ～ H29.10.13	国交省	〃	県教委
3	高田遺跡	17-3KT	香南市野市町下井	弥生 ～ 近世	〃	1,500㎡	H29.10.5 ～ H30.2.6	〃	〃	〃
4	高知城跡 北曲輪	17-4KK	高知市丸ノ内	古代 ～ 近世	屋敷跡	1,300㎡	H29.8.30 ～ H29.12.15	高知県	建物	高知県
合 計						10,010㎡				

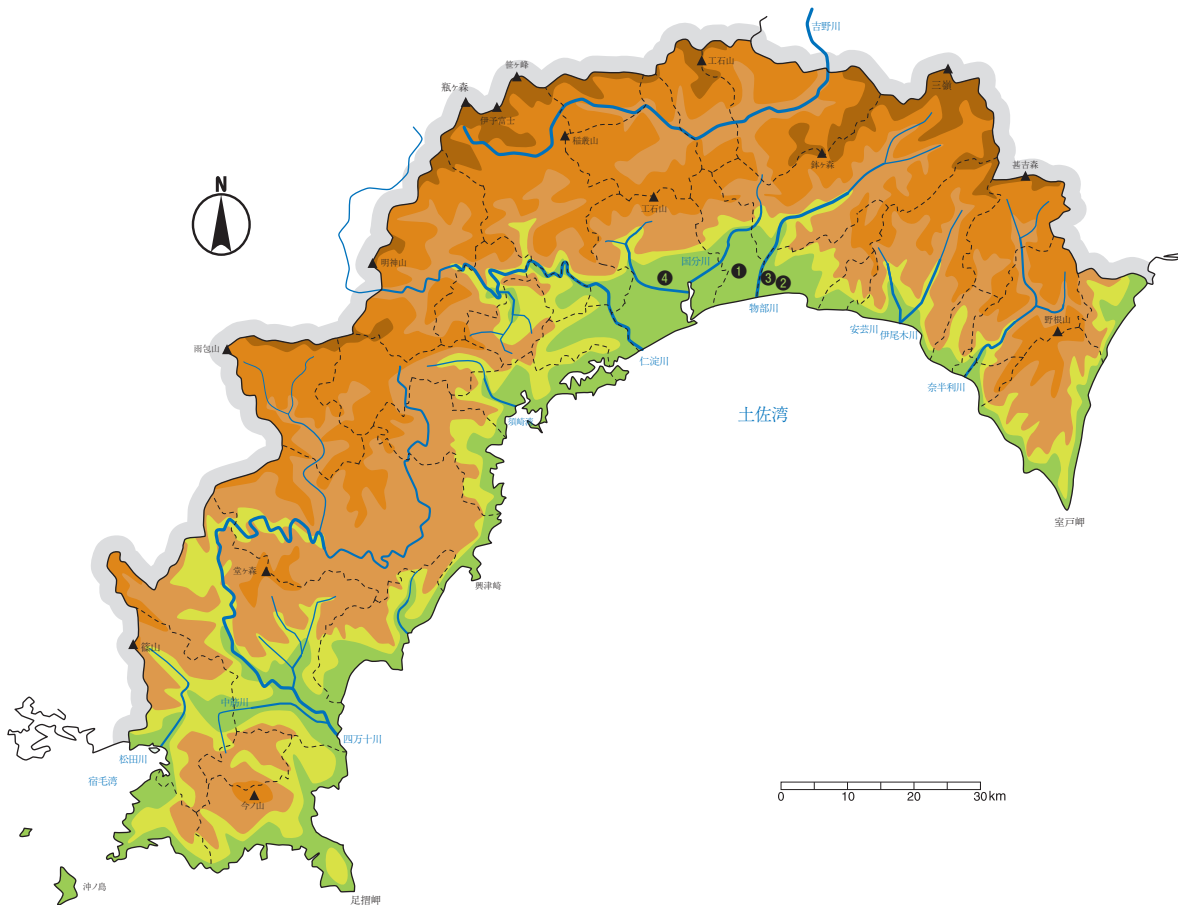


図6 平成29年度受託事業発掘調査位置図(番号は発掘調査受託事業(本発掘調査遺跡)一覧表の番号と一致)

置した。調査課の人員内訳は調査課長兼第一班長1名、企画調整班長1名、調査班長2名、調査員8名(専門調査員3名,主任調査員4名,調査員1名)、契約職員3名であり、このうち実質的に発掘調査及び整理作業を担当するのは調査班長2名(財団職員1名,派遣教員1名)、調査員5名(県派遣1名,財団職員4名,嘱託職員1名)である。

平成29年度の調査課の業務分担は、企画調整班が物品・遺物(県保有物)等の貸出やホームページの管理などの情報公開、企画展等事業、公開講座等事業、出前考古学教室など指定管理に関わる普及教育業務、調査第一班が高知県保健衛生総合庁舎、調査第二班が都市計画道路高知南国線、調査第三班が南国安芸道路に関する事業であった。

(1) 発掘調査事業

平成29年度の発掘調査件数は4件であった。委託元は高知県教育委員会と高知県であり、高知県教育委員会からの受託事業には国関係の再委託2件、高知県からの受託事業には都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡の発掘調査と保健衛生総合庁舎建設に伴う高知城跡北曲輪発掘調査の2件があった。

各事業について具体的にみると高知県教育委員会から受託した国関係の事業は高知龍馬空港ICから香南のいちIC間の発掘調査を行っており、平成29年度は香南市野市町東野地区の東野遠山遺跡と香南市野市町下井地区の高田遺跡について発掘調査が実施された。今後は路線内の試掘調査の結果を得てこの区間の発掘調査が継続的に行われる予定である。

県関係では、平成27年度に引き続き高知県保健衛生総合庁舎建設に伴う高知城跡北曲輪の発掘調査が行われ、平成30年度に発掘調査報告書を公開する予定である。また、平成28年度から始まった都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡の発掘調査も行われ、平成30年度以降も継続して発掘調査を実施することになっている。

(2) 整理事業

平成29年度の整理件数は5件であった。委託元は発掘調査事業と同様に高知県教育委員会と高知県であり、高知県教育委員会からの受託事業には国関係の再委託3件、高知県からの受託事業には都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡と保健衛生総合庁舎建設に伴う高知城跡北曲輪の2

表6 平成29年度受託整理事業(整理遺跡)一覧

No.	遺跡名	遺跡略号	所在地	時代	種別	整理期間	事業者	原因	委託者
1	宇賀遺跡	15-2KU	香南市野市町下井	古代・近世	生産	H29.4.3 ～ H30.3.30	国交省	道路	県教委
2	高田遺跡	15-3KT 16-2KT	〃	弥生・古代	集落跡	〃	〃	〃	〃
3	東野土居遺跡	10-1KH 11-1KH	香南市野市町東野・土居	弥生～近世	〃	〃	〃	〃	〃
4	若宮ノ東遺跡	16-3NW	南国市篠原	弥生・古墳	〃	H29.4.1 ～ H30.3.31	高知県	〃	高知県
5	高知城跡北曲輪	15-4KK	高知市丸ノ内	近世	屋敷跡	〃	〃	建物	〃

1. 発掘調査受託事業

件があった。

国関係事業では南国安芸道路の『東野土居遺跡Ⅳ』と平成27年度に発掘調査を実施した宇賀遺跡・高田遺跡の報告書公刊に向けた整理作業を行い、報告書を公刊した。東野土居遺跡は高知県香南市野市町東野・土居に所在し、香宗川右岸の野市台地に立地する。今回の『東野土居遺跡Ⅳ』では、弥生時代後期から古墳時代前期・後期の集落と奈良時代から平安時代にかけての建物群など各調査区の成果と、これまで公刊した『東野土居遺跡Ⅰ～Ⅲ』の調査成果をふまえ考察し、総括的にまとめている。宇賀遺跡・高田遺跡は香南市野市町下井に所在し、物部川左岸の野市台地に立地する。宇賀遺跡は平成27年度、高田遺跡は平成27・28年度に発掘調査を行った調査区について報告書を公刊した。宇賀遺跡では建物跡などの遺構は確認できなかったが、溝跡が多く確認されたことから畑や水田などの生産域であったと考えられる。高田遺跡は、弥生時代後期後半から古墳時代初頭の竪穴建物跡や土器棺墓を検出し、集落の存在が確認された。古代では、規格性をもった掘立柱建物跡を検出し、赤色塗彩土師器や緑釉陶器、灰釉陶器、円面硯、刀子などが出土している。今後も継続して発掘調査が行われることから遺跡の拡がり、周辺の古代官衙関連遺跡との関連性がみえてくると考えられる。

県事業では、若宮ノ東遺跡の出土遺物の洗浄・註記作業と平成27年度に発掘調査を行った高知城跡北曲輪の報告書公刊に向けた整理作業を実施した。若宮ノ東遺跡は南国市篠原に所在し、長岡台地から平野部に続く変換地点に位置する。当該年度の発掘調査では弥生時代末から古墳時代初頭にかけての竪穴建物跡や古代の掘立柱建物跡などが検出されており、複合的な遺跡である事が明らかと

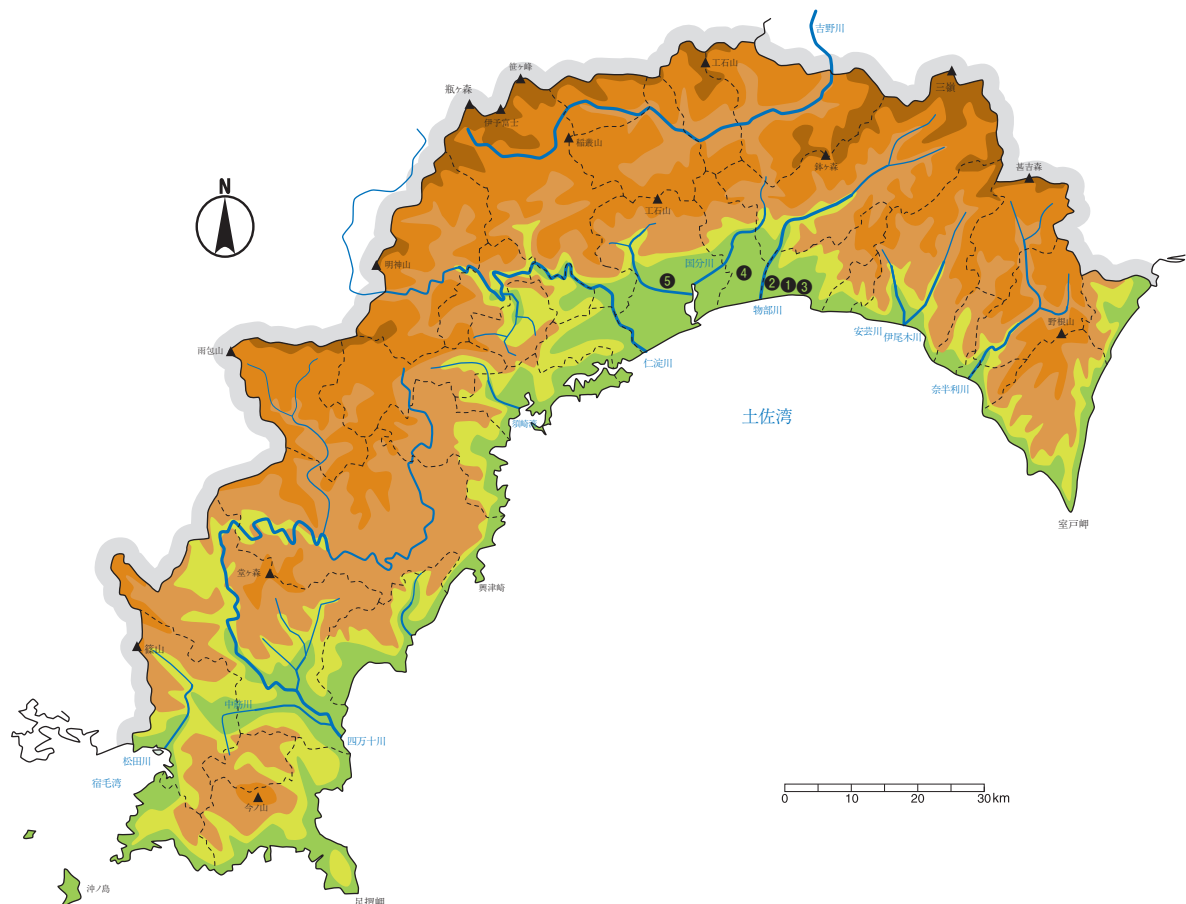


図7 平成29年度受託事業整理作業位置図(番号は発掘調査受託事業(整理作業)一覧表の番号と一致)

なっている。高知城跡北曲輪は史跡高知城跡の北側に位置し、大高坂山の丘陵裾部に立地する。平成27年度の調査では、江戸時代前期から後期にかけての掘立柱建物跡や土坑、溝跡など高知城跡に関連するとみられる遺構が確認されており、藩主山内家の家紋である三ツ葉柏文の軒丸瓦や軒平瓦や鬼瓦・鳥衾瓦も出土している。報告書は平成29年度調査分も合わせて、平成30年度に公刊する予定である。

2. 指定管理事業

高知県教育委員会が県立埋蔵文化財センターの管理運営代行業務に関して導入した現在の指定管理者の指定期間は平成25年4月1日から平成30年3月31日までの5年間であり、平成29年度はその5年目に該当する。本年度の主な普及教育事業としては年間4本の公開展示（企画展、巡回展、特別展、移動展）、公開講座76回（展示会に伴うものを含む）、出前考古学教室76校（75回）、ホームページやWeb公開データベース等での情報公開などを行った。また、埋蔵文化財保護の推進と普及啓発をはかるため、発掘調査成果を活用した講演会やワークショップ等を実施するとともに、昨年度に引き続き地域の特色ある埋蔵文化財活用事業の支援を受けて「まいぶんセンターまつり」を実施した。これは各種の古代ものづくりや火起こしの体験教室や出土遺物のミニ展示、整理作業の様子や収蔵遺物を見学してもらうバックヤードツアーを組み合わせた催しで、地域住民をはじめ県民の方々に埋蔵文化財セ



写真1 年間行事カレンダー

表7 入館者推移表と平成29年度の入館者

年度	合計 (人)	入館者内訳(人)		展示会内訳(人)								展示報告・解説 参加人数(人)
		子供	大人	常設展	巡回展	企画展	企画展1	企画展2	特別展	速報展	その他	
H13年度	811	487	324	811	-	-	-	-	-	-	-	-
H14年度	821	493	328	177	-	644	-	-	-	-	-	-
H15年度	1,171	703	468	468	-	703	-	-	-	-	-	20
H16年度	1,523	913	610	402	802	319	-	-	-	-	-	-
H17年度	1,318	787	531	431	542	345	-	-	-	-	-	17
H18年度	1,555	582	973	504	449	-	-	-	-	482	120	47
H19年度	2,182	348	1,834	392	809	501	-	-	333	-	147	87
H20年度	2,561	740	1,821	-	1,224	-	451	328	253	-	305	147
H21年度	2,866	905	1,961	-	1,417	-	508	388	363	-	190	170
H22年度	2,816	1,019	1,797	-	1,558	-	347	331	383	-	197	104
H23年度	3,058	1,035	2,023	-	1,521	-	490	466	369	-	212	147
H24年度	2,854	1,074	1,780	-	1,247	-	557	595	338	-	117	110
H25年度	3,205	1,342	1,863	-	1,431	-	625	415	621	-	113	208
H26年度	3,120	1,428	1,692	-	1,320	-	686	560	396	-	158	117
H27年度	4,040	1,591	2,449	-	1,640	-	725	870	422	-	175	87
H28年度	4,651	1,583	3,068	-	2,121	-	790	-	1,394	-	249	138
H29年度	3,884	2,715	1,169	-	1,513	730	-	-	1,484	-	379	81
合計(人)	42,436	17,745	24,691	3,185	17,594	3,242	5,179	3,953	6,356	482	2,362	1,480

2. 指定管理事業

センターの事業を知ってもらう機会とすることを目的としたものである。結果として284人の来館者を得ることができ、アンケートの結果は好評であった。

また、来館者や催事参加者に出土遺物への理解を深めてもらうために、発掘調査で出土した遺物の中から抽出した木簡レプリカと体験教室用シリコンを国庫補助金を活用して製作した。また、報告書に掲載された遺物や資料の再整理なども行い、収蔵遺物をより有効的に活用できる条件の整備を図った。

入館者の内訳については、展示および施設の見学者や体験学習者、講座・報告会等の参加者が中心であるが、出土文化財等の調査・研究のための来館者や、近隣の小学校児童の日常的な来館もみられた。入館者総数は3,884人で、前年度を大きく下回った。入館者減の主な原因は、公開展示のうち「四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展」の来館者数によるもので、昨年度の2,121人対して、本年度は1,513人と608人減少している。

今後、入館者数を恒常的に安定または増加させていくには、多様なニーズに対応するために、より分かりやすい「テーマ」と「展示」を心掛けるとともに、学校関係をはじめとする各種団体へのより積極的な働きかけが重要と考えられる。

(1) 公開展示

埋蔵文化財センターの展示室を会場とし、発掘調査成果の公開活用のために年間3本の展示会を実施したが、入館者数は総計3,884人で対前年度比約16%減であった。県民の方々により来館していただけるような展示テーマや展示方法を工夫するとともに、様々な媒体に向けた広報活動を展開していく。

団体見学については計7件で、昨年度より8件減少した。これまでの件数及び人数の詳細は表15のとおりで、入館者数に占める団体見学者数の比率は比較的大きく、今後入館者数を確保していくうえでは団体見学の誘致が一定の鍵になると思われる。

以下、展示会ごとに報告する。

① 企画展

「考古学が解き明かす高知の古墳時代」と題し、発掘調査で得られた出土文化財を用いて、高知県の古墳時代を概観できる展示とした。会期は4月29日(土)から7月7日(金)で、入館者は730人で昨年度より60人減り、対前年度比では約8%減少した。企画展の会期中には当センターの担当職員による展示報告会を1回と展示品解説を2回(午前と午後の各1回)



写真2 企画展ポスター



写真3 巡回展ポスター

の計3回実施した。

② 四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展

四国四県の埋蔵文化財センターの共同の巡回展で、今年度は「四国のハニワ」をテーマに四国で発掘された埴輪を一同に集めて、古墳時代の人々の造形技術や死者を送る儀礼、各県での埴輪の違いなど最新の埴輪研究について展示を行った。会期は7月17日(月)から9月22日(金)で、入館者1,513人で昨年度より608人減り、対前年度比では約29%減少した。発掘へんろ展の会期中には当センターの担当職員による展示報告会を1回と展示品解説を2回(午前と午後の各1回)の計3回実施した。また、9月3日(日)には香美市に所在する古墳を見学するフィールドワークを行い、参加者は36人であった。

③ 特別展

今年度は10月14日(土)から平成30年3月30日(金)までの会期で、「モノからわかる城下町ヒストリー」と題して高知城下の遺跡にスポットをあてた特別展を開催した。入館者は1,484人で昨年度に比べて90人増え、対前年度比では約6%増加した。特別展の会期中には当センターの担当職員による展示報告会を1回と展示品解説を2回(午前と午後の各1回)の計3回実施した。また、11月18日(土)には高知城歴史博物館ホールで、江戸考古学研究者の古泉弘氏を講師として招き、「近世日本と江戸の考古学」と題して記念講演会を開催した。

④ 移動展

平成26年度から実施している移動展を今年度は3月13日(火)から3月25日(日)までの期間、高知市立自由民権記念館を会場に高知市教育委員会と共催で、「高知市の遺跡展」と題して開催した。期間中は、高知市の遺跡から出土した代表的な遺物を展示し、高知市に所在する遺跡の様子等を紹介するパネルを掲示した。会期中の来場者は379名で、3月18日(日)には、ワークショップ(勾玉づくり体験)や高知大学人文社会科学部講師の宮里修氏による講演会「遺跡から見る高知市ー人と土地の歴史ー」を行った。当日は、ワークショップに32名、講演会に57名の参加を得た。

来年度は安芸市との連携で、これまで当センターが安芸市内で発掘調査を行った遺跡を取り上げ、考古学から見た安芸市の歴史を概観できる展示を予定している。

(2) 公開講座等

講座として「遺跡解説会」3回、「考古学からわかる歴史教室」3回、「親子考古学教室」31回、「授業にいかせる考古学教室」1回(中止)、「古代ものづくり体験教室」20回及び各展



写真4 特別展ポスター



写真5 移動展ポスター

2. 指定管理事業

示会に伴う「展示報告会」3回と「展示解説会」6回(午前・午後)、特別展に伴う「記念講演会」1回、移動展に伴う「ワークショップ」と「講演会」各1回、そして今年度から新たな取り組みとして「考古学研究最前線解説会」2回と「考古学から学ぶ史跡の見方」4回の合計75回を開催し、1,874人の参加者があった。参加者は昨年度と比べ、僅かではあるが増加している。

今年度から新たに開催した2講座のうち「考古学研究最前線解説会」は、より深く考古学に親しんでいただくために、埋蔵文化財センター調査員がこれまで積み重ねてきた研究成果を踏まえ、遺跡の最新情報と新しい知見を解説する講座とし、合計50名の参加を得た。また、「考古学から学ぶ史跡の見方」では、県内外の史跡を訪ねるフィールドワーク形式で、調査員や現地講師による考古学の視点からの解説を行った。各回定員40名で探訪地により現地集合またはバスツアーの形を取ったが、合計140名もの参加を得られ大変好評であったので、来年度も全4回開催する予定である。

親子考古学教室では1,151人の参加があり、大人489人、子ども(大半は小学生)662人で、大人1人に対して子供平均1.4人の参加と昨年度とほぼ同じ割合である。付き添う大人がいっしょに製作を楽しむ姿や、家族や三世代で参加する姿も目立ち、参加者層の広がりを強く感じられた。この親子考古学教室は、チラシを県下の全小学生に配付し始めてからはリピーターも多く、開催日によっては定員以上の応募がある最も人気の講座である。

各講座の平均参加者数では、遺跡解説会が22人(募集定員40人)、考古学からわかる歴史教室が18人(募集定員40人)、親子考古学教室が36人(募集定員35人)、古代ものづくり体験教室が9人(募集定員10

表8 公開講座参加者数

年度	合計	内訳							
		考古学からわかる歴史教室	遺跡解説会	授業にいかせる考古学教室	親子考古学教室	古代ものづくり体験教室	遺跡見学会	考古学研究最前線解説会	考古学から学ぶ史跡の見方
平成13年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平成14年度	48人	—	—	—	48人	—	—	—	—
平成15年度	109人	—	—	—	109人	—	—	—	—
平成16年度	175人	—	—	—	175人	—	—	—	—
平成17年度	120人	—	—	—	120人	—	—	—	—
平成18年度	431人	136人	—	—	270人	—	25人	—	—
平成19年度	444人	110人	138人	9人	146人	35人	6人	—	—
平成20年度	1,122人	83人	173人	10人	686人	148人	22人	—	—
平成21年度	1,187人	99人	106人	6人	870人	89人	17人	—	—
平成22年度	1,499人	80人	137人	7人	1,177人	67人	31人	—	—
平成23年度	1,453人	87人	99人	3人	1,129人	124人	11人	—	—
平成24年度	1,276人	69人	78人	15人	938人	157人	19人	—	—
平成25年度	1,436人	66人	101人	5人	1,132人	132人	—	—	—
平成26年度	1,453人	52人	69人	6人	1,203人	123人	—	—	—
平成27年度	1,648人	46人	111人	2人	1,395人	94人	—	—	—
平成28年度	1,607人	80人	99人	3人	1,286人	139人	—	—	—
平成29年度	1,631人	53人	66人	0人	1,151人	171人	—	50人	140人
合計	15,639人	961人	1,177人	66人	11,835人	1,279人	131人	50人	140人

※平成25年度から発掘調査報告会は遺跡解説会、先生のための考古学講座は授業にいかせる考古学教室に名称変更。

人), 展示報告会が15人(募集定員40人), 展示品解説が12人(募集定員各約20人), 考古学研究最前線解説会が25人(募集定員各約40人), 考古学から学ぶ史跡の見方が35人(募集定員各約40人)であった。考古学から学ぶ史跡の見方は募集開始とともに定員を満了し, キャンセル待ちの希望が出るほどであったが, 当日の急な欠席により平均が定員を割っている。その他の講座については, 募集定員を下回っている状態である。

これまで体験型の講座では, ものづくり教室を中心に50～60代の女性の参加が中心であったが, 比較的若い方や親子連れでの参加も目立つようになってきたことから, 体験型の講座は子どもの参加希望がきっかけで20～40代の親世代に対して当センターの活動への興味・関心を得られる機会となっている。

一方で座学を中心とする講座は, 男性の参加者が中心であるが, 現地見学の場合は女性や若い世代の参加も増える傾向にある。講師を務める調査員は, 発掘調査や研究の成果を研究者向けではなく, 一般の方に理解しやすい講話として発表する良い機会となっている。テーマや内容を考古学の専門的な内容を維持しつつ, 歴史や現代社会の生活と絡めながら一層興味を持って頂ける内容にしていくことが重要と思われる。

参加者の顔ぶれや交える会話からは埋蔵文化財センターの認知度やリピーター率は増えていると感じられる。今後も広報の拡大や観光協会への加入など種々のイベントの機会を捉えて県民に当センターの存在や活動内容を知っていただく地道な活動を継続していかなければならない。

イベント等の周知方法としては, ダイレクトメール等によるイベント案内を通年で行っているが, 各講座の受付の際には新規リピーターをつのり, 僅かではあるが希望者を増やしている。こうした案内を年間行事カレンダーの配布やホームページ等で行う一方, 報道機関等への告知(県・市町村広報紙, テレビ・ラジオ放送など)の依頼を行っており, 掲載後は申込が増える等の効果を得られている。ホームページについては, 閲覧者が見やすく必要な情報が得やすいデザインを目指して今年度全面

表9 平成29年度公開講座1

講座名	開催日	参加者	講座名	参加者	講座名	参加者	
企画展(4月29日～7月7日)		730人	古代ものづくり体験教室		考古学からわかる歴史教室		
展示報告会	5月6日(土)	20人	1 5月13日(土)	19人	1 1月13日(土)	24人	
展示品解説	6月17日(土)	13人	2 6月10日(土)	10人	2 2月10日(土)	14人	
発掘へんろ展(7月17日～9月22日)		1,513人	3 7月1日(土)	20人	3 3月10日(土)	15人	
展示報告会	7月22日(土)	11人	4 8月12日(土)	30人		遺跡解説会	
展示品解説	9月2日(土)	4人	5 10月14日(土)	21人	1 5月27日(土)	22人	
古墳見学	9月3日(日)	36人	6 11月25日(土)	19人	2 6月24日(土)	26人	
特別展(10月14日～3月30日)		1,484人	7 1月15日(月)	12人	3 12月16日(土)	18人	
展示報告会	11月4日(土)	15人	8 2月17日(土)	12人		考古学から学ぶ史跡の見方	
記念講演会	11月18日(土)	37人	9 3月3日(土)	20人	1 5月21日(日)	37人	
展示品解説	12月9日(土)	18人	10 3月17日(土)	8人	2 8月20日(日)	33人	
移動展(3月13日～3月25日)		379人	授業にいかせる考古学教室		3 12月3日(日)	34人	
ワークショップ	3月18日(日)	32人	8月4日(金)	0人	4 3月4日(日)	36人	
講演会	3月18日(日)	57人				考古学研究最前線解説会	
						まいぶんセンターまつり	
				9月9日(土)	21人	11月12日(日)	284人
				10月28日(土)	29人		

2. 指定管理事業

リニューアルを行い、7月から公開をした。各講座へのWeb申込を可能とし、さらにソーシャルネットワークでの情報発信力を期待してFacebookでの情報発信も始め、埋蔵文化財センターに関心を持ったフォロワーを増やしている。実際に運用を始めてわかる改善点も出てきており、改善を加えながらより利用しやすいものとしていく必要がある。

また、当センター以外の場所でのイベントへの参加や学校以外での出前教室の依頼も増えており、公民館等で開催することにより地域の歴史に興味と関心をもっていただく機会となっている。

① 考古学からわかる歴史教室

従来の「考古学講座」に代えて平成25年度から開催し始めたもので、今年度は年3回、13時30分から15時30分までの2時間にわたる教室として埋蔵文化財センターにおいて実施した。今年度は、高知県の歴史について初心者向けの講座を行ったが、参加総数は53人で対前年度比は約34%減であっ

表10 平成29年度考古学講座(考古学からわかる歴史教室)

開催日	講座内容	担当者
第1回(1月13日(土))	意外と知らない高知の遺跡1 「旧石器時代～弥生時代」	江間盛男
第2回(2月10日(土))	意外と知らない高知の遺跡2 「古代」	池澤俊幸
第3回(3月10日(土))	意外と知らない高知の遺跡3 「中世・近世」	藤野明弘

表11 平成29年度遺跡解説会(遺跡解説会)

開催日	講座内容	担当者
第1回(5月27日(土))	若宮ノ東遺跡	坂本憲昭
第2回(6月24日(土))	伏原遺跡	徳平涼子
第3回(12月16日(土))	高田遺跡(H28年度)	坂本裕一

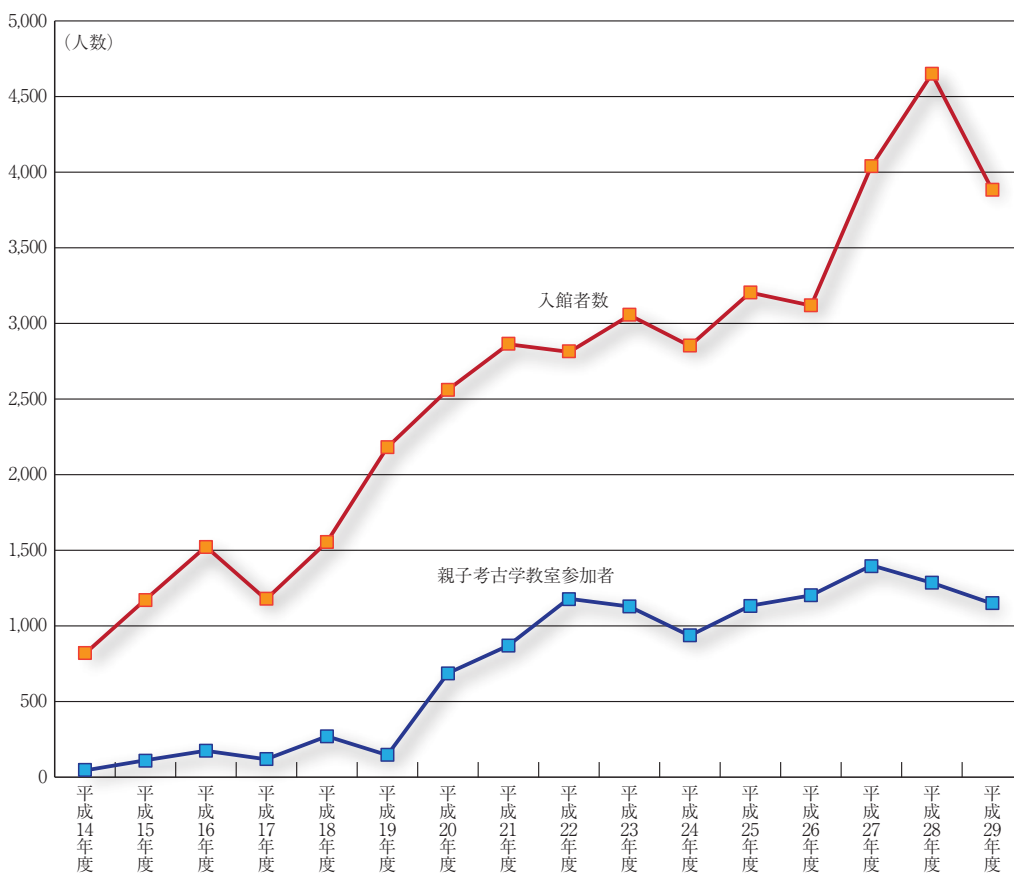


図8 入館者に占める親子考古学教室参加者の割合

た。テーマが受講者の興味に合致していなかったことも考えられ、受講者が関心を持つテーマを設定していくことが課題である。

② 遺跡解説会

埋蔵文化財センターが近年実施した発掘調査のうち、注目された3遺跡の発掘調査を取り上げ、視聴覚機器を活用して平易かつ視覚的に解説するとともに出土遺物も実見してもらい、遺跡についての理解を一層深めてもらうことを目的としている。参加者総数は66人で、昨年度より33%も減少している。記者発表や現地説明会を通して、当センターが実施している発掘調査の成果を周知していくことが、重要であると考えられる。

③ 親子考古学教室

公開講座の中で最も人気のある講座で、「勾玉づくり」と「火起こし」をセットにした親子を対象とする体験型講座である。公開講座の中でも例年希望者が多く、県内の小学生全員を対象として夏休み前にチラシを配布し、周知をはかった。本年度は当センターの他、宿毛市・四万十市・四万十町・須崎市・室戸市・安芸市・本山町で開催し、計31回実施した。参加人数は1,151人(大人489人、子ども662人)であった。

④ 授業にいかせる考古学教室

学校現場の先生に考古学に関心を持っていただき、埋蔵文化財センターとの連携を深めるために企画した講座である。内容は、午前が考古学概説や展示遺物解説、午後は古代ものづくり体験・整理作業体験・収蔵庫での遺物検索体験から選択した活動としている。本年度は希望者がなく、実施できなかったため、今後は参加しやすい日程設定や広報活動の強化に努めていく。

⑤ 古代ものづくり体験教室

平成24年度から「勾玉づくり」「ガラス玉づくり」「銅鏡づくり」「土器づくり」の4つのメニューで



写真6 親子考古学教室ポスター

表12 平成29年度公開講座2(親子考古学教室)

開催日	午前の部		午後の部		計	開催日	午前の部		午後の部		計
	大人	子供	大人	子供			大人	子供	大人	子供	
※ 7月22日(土)	16人	25人	16人	29人	86人	8月9日(水)	20人	28人	17人	23人	88人
※ 7月23日(日)	10人	13人	7人	9人	39人	8月13日(日)	21人	26人	20人	21人	88人
7月25日(火)	16人	31人	17人	25人	89人	8月15日(火)	17人	23人	20人	22人	82人
7月27日(木)	14人	21人	15人	26人	76人	※ 8月19日(土)	18人	10人	7人	10人	45人
※ 7月29日(土)	12人	14人	3人	3人	32人	8月22日(火)	18人	22人	15人	21人	76人
7月30日(日)	17人	23人	23人	22人	85人	8月26日(土)	18人	24人	18人	26人	86人
※ 8月2日(水)	14人	23人	13人	26人	76人	8月27日(日)	18人	20人	19人	29人	86人
※ 8月5日(土)	17人	19人	14人	20人	70人	合計	265人	350人	224人	312人	1,151人
※ 8月6日(日)	19人	28人	中止		47人						※は館外で実施

2. 指定管理事業

実施していたが、平成27年度からは、「琥珀勾玉づくり」及び「編布づくり」を加えた6つのメニューで、全10回開催し、参加人数は昨年度より32人多い171人であった。リピーターが多い傾向が見られるので、新規参加者を増やすため、より魅力的なメニュー開発や幅広い層に届く広報展開が必要である。

⑥まいぶんセンターまつり

センターが所在する地域の方々を中心に埋蔵文化財センターを知ってもらう機会として平成27年度から開催し3年目を迎えた。内容として、古代ものづくり体験教室で実施している勾玉づくり、編布づくり、銅鏡づくり、土器づくり及び火起こしの体験教室を一堂に開催して体験してもらうとともに整理作業室と収蔵庫を見学するバックヤードツアーを行っている。開催初年度は雨天でありながら約300人の参加があった。2年目の昨年度は駐車場などの許容量を考慮して周知を学校、公民館へのポスター掲示のみにしてみたところ参加者数は174人に減少することとなった。近接したクリニックから大きな駐車場の使用協力を得ることができたため、今年度は初年度と同様に近隣市の学校を中心にチラシによる広報を行い、284人の参加者を得ることができた。

参加された方には、おおむね満足して楽しんでいただくことができている。しかし、できるだけ多くの体験への参加を希望して来られるため、各コーナーの開催回数や時間帯によって十分に希望を満たすことができていない。参加者の年齢層も幅広く、初めて来館された方や親子連れも多い。

また、近所の子どもたちだけでの参加もあり、気軽に埋蔵文化財センターに来館してもらう良い機会となっている。今後も継続して開催する意義は認められるので、対応する職員数や施設の利用スペース等限られた中での対応となるが、できるだけ参加者に満足が頂けるように開催内容等に工夫をして行く必要がある。

i 展示解説

開催中の特別展「モノからわかる城下町ヒストリー」の展示解説を行った。展示している遺跡や遺構・遺物について詳しく解説することで、参加者から質問を受ける場面もあり、地域の歴史に興味を持つ機会となっている。

ii バックヤードツアー

センターの業務内容を知っていただくために、普段は見ることのできない収蔵庫や整理作業室を解説を交えて見学していただいた。特に、土器の接合や補填作業を行っている様子を間近に見学す



写真7 まいぶんセンターまつり(会場)



写真8 まいぶんセンターまつり(展示)

ることにより、地道な作業を行っていることに驚かれる参加者が多く、遺跡に興味と関心を持っていただく機会となっている。

iii ものづくり体験教室

勾玉づくり、銅鏡づくり、編布づくり、土器づくりとともに火起こし体験を行った。各ブースは定員を設定し実施したがどのブースも盛況であり、複数のものづくりに参加される方も多数みられた。各ものづくりについては最初にする物の歴史について話を行ってから作成に取りかかることとしている。勾玉づくりは希望者が多く、定員を増やして実施した。銅鏡づくりは、田村遺跡で出土した内行花紋鏡を復元したシリコンゴムの鋳型を使用している。電熱器で低融点合金を溶かして流しこみ、冷ましてからサンドペーパーで磨く工程で作成する。丁寧に磨くと実際の鏡のように輝くため、好評であった。編布づくりでは、作り方を理解するまでに少し時間を要するが、その後は順調に作り上げることができていた。土器づくりでは、形や模様など工夫をしながら作り上げ、様々な土器ができあがった。作品は1ヵ月間乾燥させた後に職員が焼きあげ、焼きあがった土器をセンターに受け取りに来ていただいた。火起こしでは、火種を作ることの大変さを体験し、タイムトライアルに挑戦する参加者もたくさんいた。



写真9 まいぶんセンターまつり(編布づくり)

iv 土器パズルコーナー

土器パズルのコーナーでは、高知県で出土した土器のレプリカ立体パズルや施文体験に挑戦してもらい、楽しみながら土器の形や文様等に触れる機会となった。また、このコーナーでは子ども向けの考古学クイズラリー、古代衣装体験のほか、当センターのマスコット「文蔵くん」「まいちゃん」と写真を撮る事もでき、縄文人・弥生人の人形とともに家族で写真撮影する場面もみられた。

(3) 情報公開等

埋蔵文化財及び発掘調査に関する情報公開のため、インターネットホームページの管理更新を行った。埋蔵文化財の基礎情報としてこれまでの発掘調査報告及び展示パンフレット、広報用資料などをPDFにより電子データとして公開している。展示会パンフレット等の新たな発行物を随時追加更新することにより、インターネットを介して最新情報を閲覧・ダウンロードすることができ、埋蔵文化財資料及び情報の公開・活用に資している。このような当センターの手法は、全国的にみても利便性の高いものといえる。



お知らせ

- 2017.10.25 **体験教室** 11月5日は古代ものづくり体験教室「銅鏡包みづくり」の申込み受付を開始しました。
- 2017.10.18 **お知らせ** 公開情報「まいぶんセンターまつり」を11/12(日)に開催いたします。
- 2017.10.02 **講座** 12月に開催する「考古学から学ぶ史跡の見方展覧会『高知市竹林寺』」の受付開始、チラシをアップしました。
- 2017.09.15 **お知らせ** 9月3日(日)に香美市で行われた古墳見学の場子を掲載しました。
- 2017.09.11 **お知らせ** 考古学から学ぶ史跡の見方「坂野町 阿保森遺跡」の申込みは定員となりました。

[お知らせ一覧はこちら](#)



写真10 ホームページ

2. 指定管理事業

表13 平成29年度物品・遺物(県有物)貸出一覧1

番号	貸出先	貸出遺物	貸出期間	目的
1	高知県立歴史民俗資料館	奥谷南遺跡出土遺物他 計375点	H29.4.1～H30.3.31	常設展で展示
2	宮地聡一郎	上ノ村遺跡出土遺物 計200点	H29.5.1	調査研究
3	高知大学人文社会科学部 講師 宮里修	居徳遺跡群出土遺物 計116点	H29.5.18～5.19	調査研究
4	愛媛県埋蔵文化財センター 中野良一	田村遺跡群、船戸遺跡出土遺物	H29.5.18	胎土分析試料選別の事前調査
5	香美市立片地小学校	学校貸出セット一式 林田遺跡出土遺物計4点	H29.6.10～6.17	授業で使用
6	徳島県立博物館 岡本治代	比江廃寺跡出土遺物 計16点	H29.7.11～7.13	調査研究
7	高知大学人文社会科学部 講師 宮里修	田村遺跡群、西分増井遺跡群 出土遺物 計23点	H29.6.29	調査研究
8	高知大学人文社会科学部 講師 宮里修	倉岡遺跡出土遺物(コンテナ14箱)	H29.6.29～H30.3.28	調査研究
9	市川創	高知城跡出土遺物 計77点	H29.7.4	調査研究
10	四万十市教育委員会	風指遺跡、具同中山遺跡群、坂本遺跡 出土遺物 計24点	H29.6.30～11.17	「志国高知幕末維新博 しまんと特別企画展」での展示
11	愛媛県歴史文化博物館 兵頭勲	田村遺跡群、福井遺跡、銅古屋岩陰遺跡 出土遺物 計3点	H29.8.4	調査研究
12	愛媛県埋蔵文化財センター 中野良一	田村遺跡群、船戸遺跡出土遺物 計45点	H29.7.13～9.30	胎土分析試料の記録作業
13	愛媛大学法文学部 准教授 幸泉満夫	上ノ村遺跡、神ヶ谷窯跡出土遺物 計165点	H29.9.15	調査研究及び学生指導
14	香川県埋蔵文化財センター 蔵本晋司	西野々遺跡、西鴨地遺跡、具同中山遺跡群 天神溝田遺跡、徳王子前島遺跡 出土遺物 計8点	H29.8.22	調査研究
15	高知大学人文社会科学部 講師 宮里修	具同中山遺跡群、飛田坂本遺跡 東野土居遺跡、林口遺跡、田村遺跡群 奥名遺跡、西山城跡出土遺物 計567点	H29.9.7	学生指導
16	高知大学人文社会科学部 稲垣直也	田村遺跡群出土遺物 計36点	H29.9.13	卒業論文執筆
17	高知大学人文社会科学部 登綾音	田村遺跡群出土遺物 計29点	H29.10.10	卒業論文執筆
18	愛媛県歴史文化博物館 兵頭勲	奥谷南遺跡出土遺物 計1点	H29.9.27	調査研究
19	徳島県立博物館 岡本治代	比江廃寺跡出土遺物 計3点	H29.10.10	調査研究
20	四万十市教育委員会	岡豊城跡、江ノ古・ハナノシロ城跡、 具同中山遺跡群、船戸遺跡、扇城跡、 西山城跡出土遺物 計40点	H29.10.26～H30.3.16	「志国高知幕末維新博 しまんと特別企画展」での展示
21	岡山大学大学院 社会文化科学研究所 中川朋美	居徳遺跡群出土遺物 計25点	H30.1.23～1.25	博士論文執筆
22	高知大学人文社会科学部 稲垣直也	田村遺跡群出土遺物 計20点	H29.12.20	卒業論文執筆
23	安城市教育委員会 岡安雅彦	田村・居徳遺跡群出土遺物 計360点	H30.1.22～1.23	調査研究
24	高知県立高知城歴史博物館	具同中山遺跡群、西野々遺跡、西鴨地遺跡、 天神遺跡、林口遺跡、高知城伝下屋敷、 追手筋遺跡出土遺物 計15点	H30.2 下旬～3 末	展示
25	四万十市教育委員会	高知城跡、高知城伝下屋敷跡 出土遺物 計10点	H30.2.27～3.31	「志国高知幕末維新博 しまんと特別企画展」での展示
26	四万十市教育委員会	具同中山遺跡群、坂本遺跡出土遺物 計4点	H30.2.27～3.31	常設展での展示

表14 平成29年度物品・遺物(県有物)貸出一覧2

番号	貸出先	貸出遺物	貸出期間	目的
27	高知大学人文社会科学部 講師 宮里修	居徳遺跡群出土遺物 計1,351点	H30.3.5～3.6	調査研究
28	兵庫県立大学 中井淳史	田村遺跡群, 岡豊城跡出土遺物 計589点	H30.3.12～3.15	調査研究
29	高知大学人文社会科学部 講師 宮里修	倉岡遺跡出土遺物(コンテナ14箱)	H30.3.29～3.31	調査研究

また、従来からマスコミへの告知情報のリリースや取材には積極的に対応しており、新聞報道やテレビ放送による企画展示情報やイベントの紹介、さんSUN高知及び県広報誌でのラジオ告知、市町村広報誌へ企画展示やイベント情報をリリースしたことにより埋蔵文化財センターへの関心や知名度は着実に向上してきているものと考えられる。

以上のことを踏まえ、人気のある講座は今後もできる限り拡充し、かつ来館しにくい地域にはこちらから出向いて講座・教室の場を提供するなど工夫して地域教育や歴史教育に欠くことのできない施設である埋蔵文化財センターをより一層アピールしていくこととする。なお、前年度の業務内容を記録した『年報26号』を刊行している。

① ホームページ

今年度、当センターでは業務内容をホームページ訪問者に広く伝え、かつサイト訪問者にとって魅力ある情報を分かりやすくいつでも入手できる手段となることや、職員によるコンテンツの作成・更新の容易性と情報提供機能の充実を高めることにより、サイト訪問者に分かりやすく使いやすいWebサイトを再構築することを目的として、コンテンツマネジメントシステム(CMS)の導入を行い、ホームページのリニューアルを行った。

今年度行ったホームページのリニューアルではスマートフォンやタブレット端末による閲覧に対応したことにより、新設した申し込みフォームからのアクセスが増え、ホームページ訪問者の利便性がより高まったと思われる。今後も埋蔵文化財センターをよりアピールするために、魅力的なコンテンツを配信していく必要がある。

※平成29年度からURL：<https://www.kochi-maibun.jp>

② Web公開データベース

平成16年度から始めたWeb公開データベースは、報告書PDF等印刷物のみを公開している。遺跡データベースは、最終的には遺跡情報についてのみ高知県教育委員会に引き継がれ公開されることとなった。一方、報告書PDFについては高知県文化財団のホームページと同じサイトでの公開が承認され、報告書等のデータをPDF化して掲載しているもので、高知県埋蔵文化財センターが刊行した報告書、年報、現地説明会資料を対象としている。

また、報告書PDF等のWeb公開に伴い発生する問題点として、著作権法における公衆送信権と複製権があり、これに対応するために著作権者から公開の許諾を取り、確認できたものから当センターのホームページで公開している。

③ 物品(県有物)等の貸出と資料管理

出土文化財、図書等の資料管理については、高知県立埋蔵文化財センター資料管理要領に基づき、適切な管理に努めた。また、新規に受け入れた資料については要領に基づいて登録し、情報管理

2. 指定管理事業

データベースを更新することにより活用の便を図った。

遺物、写真、図書等の資料の貸出しについては、出土文化財29件、物品4件、写真掲載許可等25件の借用依頼等に対し、文化財保護推進のために活用を図ることを基本方針として、迅速に対応した。平成29年度の主な貸出先は高知県立歴史民俗資料館、高知県立高知城歴史博物館、高知大学、四万十市教育委員会などである。

表15 平成29年度施設見学者一覧

No.	団体名	見学日	生徒等	引率者	総数	内容
1	南国市立大篠小学校3年1・2組	平成29年5月22日	76人	5人	81人	展示見学, 館内見学
2	南国市立大篠小学校3年3・4組	平成29年5月23日	76人	5人	81人	展示見学, 館内見学
3	南国市教育研究所	平成29年8月3日	10人	2人	12人	展示見学, 体験学習
4	いの町立枝川小学校	平成29年11月2日	56人	4人	60人	展示見学, 体験学習
5	高知県立高知工業高等学校	平成29年11月24日	40人	3人	43人	現場見学(高田遺跡)
6	香美市立舟入小学校	平成29年12月4日	35人	2人	37人	体験学習
7	南国市観光協会	平成30年3月9日	20人	4人	24人	展示見学
合計			313人	25人	338人	

表16 平成10～29年度出前考古学教室実績一覧

No.	年度	実施対象地域	対象学年	実施回数	実施校数	実施期間	授業児童生徒数	参加児童生徒数
1	平成10年度	南国市	小・中学校	8回	8校	前期/試行	450人	450人
2	平成11年度	〃	〃	10回	10校	前期	505人	1,428人
3	平成12年度	全県下	小学校	28回	40校	〃	1,352人	3,789人
4	平成13年度	〃	〃	26回	27校	〃	1,060人	2,233人
5	平成14年度	〃	〃	27回	31校	〃	944人	2,541人
6	平成15年度	〃	〃	29回	31校	〃	1,232人	2,121人
7	平成16年度	〃	〃	31回	41校	〃	1,083人	1,083人
8	平成17年度	〃	〃	33回	34校	前・後	1,049人	1,357人
9	平成18年度	〃	〃	51回	60校	〃	1,772人	1,703人
10	平成19年度	〃	小・中学校	51回	69校	〃	2,058人	2,467人
11	平成20年度	〃	〃	52回	64校	〃	1,688人	2,088人
12	平成21年度	〃	小・中・高等学校	48回	53校	〃	1,369人	1,438人
13	平成22年度	〃	〃	65回	66校	〃	2,470人	2,571人
14	平成23年度	〃	〃	61回	64校	〃	2,045人	2,223人
15	平成24年度	〃	〃	79回	71校	〃	2,710人	2,937人
16	平成25年度	〃	〃	87回	79校	〃	3,184人	3,242人
17	平成26年度	〃	〃	97回	94校	〃	3,660人	3,660人
18	平成27年度	〃	〃	92回	85校	〃	3,052人	3,052人
19	平成28年度	〃	〃	101回	97校	〃	3,375人	3,375人
20	平成29年度	〃	〃	75回	76校	〃	2,569人	2,569人
合計				1,051回	1,100校	-	37,627人	46,327人

④ 施設見学等の受入

学校や各種団体等からの見学依頼についても積極的に受け入れており、平成29年度は7件の団体見学の受け入れを行った。施設見学は295人、現場見学43人であった。

出前考古学教室に出向いた学校数は年々増加傾向にあるなか、学校関連団体の展示施設見学も昨年度同数の5件あった。出前サービスは継続しつつ、今後も発掘現場見学と組み合わせた団体施設見学の誘致など、センターへの来館見学のインセンティブについて工夫した取り組みを重ねていくことが必要である。

職場体験学習の受け入れ数は昨年度より2校多い6校(内訳、高知市立横浜中学校[2人]、香南市立野市中学校[2人]、高知市立一宮中学校[1人]、高知市立介良中学校[3人]、高知市立大津中学校[2人]、南国市立鷹ヶ池中学校[3人])であった。当センターでは、考古学に関連する実習や研修を受け入れる体制を取っており、年度によって申込の増減こそみられるものの、毎年生徒や学校機関から高評価を受けている。今後、学校機関との連携をさらに強め、積極的に取り組んでいくことが当センターの業務の理解推進や文化財保護の普及啓発活動にも大きく関わってくるものと考えられる。

(4) 出前考古学教室

本年度までの実績を合計すると、実施回数は1,051回、実施校は延べ1,100校、授業を受けた児童生徒は小学校を中心に延べ37,627人、見学者等を含めると参加児童生徒数は46,327人を数える。年々実施校は増加してきており、これまでの普及活動の成果といえる。

① 概要

本年度は75件の応募があり(小学校67,中学校1,高等学校1,大学1,子ども会2,博物館1,高齢者施設1,その他1),希望する内容ですべて実施できた。授業等を受けた児童生徒は2,569人で、実施に際しては、前年度1月上旬に各学校へ文書を送付し、前期(4~8月)を希望する場合は2月末まで、後期(9~3月)を希望する場合は6月末までに申し込みを受けた後、内容について打ち合わせを行った。

前期は4月13日の北川村立北川小学校から始まり8月28日の吾桑子ども会まで61回、後期は9月6日の四万十市立中村南小学校から2月16日の須崎市立多ノ郷小学校まで14回であった。

②内容

i 考古学授業「地域の遺跡」

授業は小・中・高・大学の希望に沿った内容で行った。小学校は6年生を中心にして歴史学習の一環と捉えて授業を希望する学校がほとんどであった。各学校では日本の代表的な遺跡の学習はしているが、地域の遺跡を知らない児童生徒が多いので、遺跡地図を学校別に作成し、学校周辺にどのような遺跡があるのかを学習した。そのほか遺物や遺構とは何か、発掘の仕方や整理作業の進め方、当センターの事業内容などについてパワーポイントを使って約30分間説明した。



写真11 考古学授業

2. 指定管理事業

表17 平成29年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)1

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
1	4/13(木)	北川村	北川小学校	6	1	11人
2	4/19(木)	香美市	楠目小学校	〃	〃	19人
3	4/20(木)	高知市	旭東小学校	〃	2	69人
4	4/25(火)	本山町	本山・吉野小学校	〃	〃	20人
5	〃	香美市	大栃小学校	〃	1	8人
6	4/26(水)	高知市	一ツ橋小学校	〃	2	57人
7	4/27(木)	〃	春野西小学校	〃	〃	46人
8	4/28(金)	大豊町	おおとよ小学校	〃	1	7人
9	5/1(月)	須崎市	上分小学校	〃	〃	9人
10	〃	高知市	小高坂小学校	〃	2	66人
11	5/2(火)	〃	十津小学校	〃	〃	68人
12	〃	日高村	加茂小学校	〃	1	22人
13	5/8(月)	須崎市	南小学校	〃	〃	7人
14	〃	いの町	川内小学校	〃	〃	12人
15	5/9(火)	須崎市	吾桑小学校	〃	〃	11人
16	〃	いの町	伊野南小学校	〃	〃	40人
17	5/11(木)	南国市	白木谷小学校	5・6	2	9人
18	5/12(金)	安芸市	伊尾木小学校	6	1	6人
19	5/15(月)	四万十町	仁井田小学校	5・6	2	12人
20	5/16(火)	高知市	介良潮見台小学校	6	〃	60人
21	5/18(木)	黒潮町	三浦小学校	〃	1	10人
22	〃	四万十市	下田小学校	〃	〃	8人
23	5/19(金)	三原村	三原小学校	〃	〃	8人
24	5/22(月)	南国市	日章小学校	〃	〃	35人
25	5/23(火)	土佐市	蓮池小学校	〃	〃	33人
26	5/25(木)	〃	宇佐小学校	〃	〃	20人
27	〃	高知市	第四小学校	〃	2	65人
28	5/26(金)	土佐市	北原小学校	〃	1	9人
29	〃	南国市	長岡小学校	〃	〃	40人
30	5/29(月)	土佐清水市	幡陽小学校	5・6	2	17人
31	〃	四万十市	西土佐小学校	6	1	11人
32	5/30(火)	土佐清水市	三崎小学校	〃	〃	11人
33	6/1(木)	高知市	昭和小学校	〃	3	97人
34	〃	〃	鴨田小学校	〃	〃	108人
35	6/2(金)	〃	鏡小学校	5・6	1	14人
36	6/4(日)	安芸市	安芸第一小学校	6	2	52人
37	6/5(月)	いの町	吾北小学校	〃	1	11人
38	〃	高知市	江陽小学校	〃	2	74人
39	6/6(火)	〃	五台山小学校	〃	1	15人
40	〃	越知町	越知小学校	〃	〃	33人
41	6/8(木)	高知市	はりまや橋小学校	〃	2	68人
42	〃	〃	旭小学校	〃	〃	67人
43	6/9(金)	佐川町	尾川小学校	〃	1	4人
44	6/12(月)	四万十市	東中筋小学校	〃	〃	22人
45	〃	土佐清水市	清水小学校	〃	2	45人
46	6/13(火)	黒潮町	入野小学校	〃	1	22人
47	〃	四万十市	東山小学校	〃	2	51人
48	6/15(木)	高知市	横浜新町小学校	〃	3	84人
49	6/17(土)	南国市	岡豊小学校	4・5	2	76人
50	6/19(月)	須崎市	浦ノ内小学校	6	1	12人
51	6/20(火)	高知市	一宮東小学校	〃	2	60人
52	6/22(木)	〃	潮江東小学校	〃	〃	64人
53	6/23(金)	室戸市	羽根小学校	〃	1	7人
54	〃	〃	元小学校	5・6	〃	7人
55	6/27(火)	仁淀川町	池川小学校	6	〃	14人

表18 平成29年度出前考古学教室前期実績一覧(授業実施数)2

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
56	6/29(木)	土佐市	戸波小学校	6	1	10人
57	7/7(金)	高知市	高知北高等学校	1~4	〃	20人
58	7/10(月)	津野町	中央小学校	6	1	16人
59	8/11(金)	越知町	横倉山自然博物館	-	-	25人
60	8/23(水)	高知市	大津子ども会	1~4	-	40人
61	8/28(月)	須崎市	吾桑子ども会	1~6	-	45人
合計						1,997人

表19 平成29年度出前考古学教室後期実績一覧(授業実施数)

No.	実施日	市町村名	学校名	学年	クラス数	人数
1	9/6(水)	四万十市	中村南小学校	6	1	30人
2	10/6(金)	高知市	長浜小学校	〃	3	91人
3	10/11(水)	香南市	すみれ会	-	-	13人
4	10/13(金)	高知市	一宮東小学校	5	2	57人
5	10/23(月)	大月町	大月小学校	6	1	42人
6	10/24(火)	四万十市	大用小学校	5・6	〃	13人
7	10/25(水)	宿毛市	感陽小学校	6	〃	29人
8	10/26(木)	高知市	三里小学校	〃	〃	34人
9	10/29(日)	香南市	職業能力開発短期大学	-	-	20人
10	11/3(金)	土佐市	戸波中学校	小中	-	120人
11	11/18(土)	高知市	総合技術ものづくり	-	-	40人
12	11/21(火)	日高村	日下小学校	6	1	19人
13	11/28(火)	四万十町	米奥小学校	5・6	〃	6人
14	2/16(金)	須崎市	多ノ郷小学校	3	2	58人
合計						572人

ii 遺物等展示解説

本県で発掘された遺物を旧石器，縄文，弥生，古墳，古代，中世の各時代から抽出し展示を行った。それぞれの時代の特徴を簡潔に説明し，児童生徒の興味や関心を高める工夫をした。また，直接土器や石器に触れる時間を設け，日常ではできない体験をさせた。児童生徒が遺物を通して古代の人々の生活と現代の生活について考え，比較するきっかけとなるよう指導した。



写真12 展示解説

iii 体験学習

a. 火起こし

火きり板とマイギリやキリモミを使って火を起こす活動である。マイギリを中心にしてペアで火起こしを行い，発火したペアはキリモミにチャレンジすることになっている。この体験は，自然物を使った道具で火を起こし，現代の恵まれた環境を見直すことにある。火起こしは体力や根気も必要で，簡単にはできない。何度もチャレンジすることで古代の人々の苦労や工夫を肌で感じる事ができる。また，日本では古来より火を神聖なものとして大切に生きており，火は生活の手段だけではないことも説明し，現代の生活を考え直す機会とする学習である。

2. 指定管理事業

b. 勾玉づくり

勾玉は市販のセットを使って作成した。児童生徒がイメージした勾玉を時間内に工作できるよう、やわらかい石材が選択されている。勾玉は、子孫繁栄を祈る装身具や、権力の象徴として作られたと考えられており、様々な形の勾玉がある。副葬品として古墳などから出土することが多く、高知県でも数多くの勾玉が出土している等、基本的事項を学習した後に作り方を説明し、60分間で作成した。手順は石に絵を描き、余白をノコギリで切り、サンドペーパーで磨く作業である。各自が考えた、世界で一つのものが作れる喜びは毎年変わらず人気である。

c. 土器づくり

本年度は希望校がなかった。成形後1ヶ月の乾燥期間を要し、薪の調達も容易ではないが、活動を通して学べることは多く、来年度も試みたい。

③ 本年度の成果と今後の取り組みについて

「出前」への申込みが多様化していることから、対応の便宜上一昨年度より次のように分類している。

出前A・・・学校の授業での開催

出前B・・・学校の授業以外での開催(学年行事や親子行事など)

出前C・・・学校以外での開催(地域行事や団体など)

i 実施回数や実施校について

前期の実施期間は5ヶ月と短いですが、小学校の授業と平行しての考古学教室を希望している学校が多く、希望が前期に集中している。後期は希望校が少ないので工夫した広報活動が必要である。年間を通じて実施回数が増加していることは歓迎できるが、県東部地域の応募が少ない。同地域は近年人口減少が進み、学校数も少ない地域だが、普及活動を進めていくことが重要と考える。また、中学・高等学校への広報普及にも積極的に取り組んでいきたい。

ii 内容について

出前授業では視聴覚機器を使うため、使用する写真や画像は吟味して抽出・作成している。児童生徒の感想では、楽しい、わかりやすい、遺跡に興味をもったという感想が多い。展示は、高知県で発掘された遺物を展示している。現代人の生活と昔の人々の生活について、類似点と相違点を比較して興味関心を高めた。何より古代人が実際に作った遺物に触れることができる体験は貴重である。火起こしは、ペアでの活動で、協力することの大切さも学ぶことができる。火がついた時の驚きや喜びも忘れることができないものとなっているようである。勾玉づくりは、根気よく取組まねばならない努力が形となったときに、古代の人々の思いをも共有できるのではないかと思う。さらに時間的



写真13 火起こし



写真14 勾玉づくり

余裕があれば、充実・展開できる可能性を秘めた活動である。

iii 学校側の受入れ態勢について

前期は前年度の3月下旬までに実施日を決定し、4月から内容の打ち合わせを行い、後期は随時実施日を決定している。体験学習のみを希望する場合にも、可能な限り遺跡の学習や解説を組み込んでもらい、活動の趣旨を達成できるよう努めた。当日の学校の対応については、必要な機器類や道具等が準備されており、円滑に運営することができた。担当教員の協力によってスムーズに実施できた。

iv 用具について

火起こし器は、いわゆるマイギリ式とキリモミ式を使用している。マイギリ式は破損が多く、毎回点検や修理をしているが、やや高価なため、質を維持しつつ経費を検討することが課題である。マイギリの芯先端は、ウツギをセンターで栽培し、加工したのも利用している。ヒノキより容易に火種ができる。一方、キリモミ式には竹を利用しているが、火種の形成が難しい。着火材には脱脂綿を使用する。火きり板は業者に注文、購入する。現在檜丸棒の口径14ミリの販売がなく、今後どのような道具を加工、制作していくのか検討中である。替芯も同様で在庫が減少しており、早急な手だてが必要である。

v スタッフについて

2名の担当職員を中心に、児童生徒の多い学校では臨時的に増員して対応した。出前先では互いに連携をとりながら、授業や展示解説等に臨んだ。

④むすび

出前考古学教室は、高知県の西から東へと76校(2校合同が1回)の学校に出向き開催することができた。参加人数は昨年度より減少したが、多くの児童生徒と触れ合うことができた。

また、10月11日に香南市吉川町の高齢者の会(すみれ会)で勾玉づくりの出前考古学教室が開催できたほか、児童生徒や教職員だけでなく6月4日の安芸市立安芸第一小学校や6月17日の南国市立岡豊小学校では、学年行事やPTA活動などを通じて保護者にも考古学の普及啓発ができ、埋蔵文化財への関心をもってもらえた。高知は弥生時代から多くの集落があり、各地に遺跡が残っているが、高知県内に遺跡があることを知らない人も多く、高知の遺跡について知っている人は、まだまだ少ないと思われる。少しでも多くの人々に地域にある遺跡を知っていただき、近隣の遺跡や歴史に興味をもつ人々が増えれば、地域の良さを見直し、誇りを持つことができるのではないかと思われる。私たちの生活には連綿たる古代人の知恵が生きており、その知恵を現代に生かす努力をするとともに、埋蔵文化財を通じて出前考古学教室を意義あるものにしていきたい。

(5) 研修事業

職員の資質向上及び最新の情報を得るため職員専門研修(表20)を行うとともに、全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会に2名、文化庁主催の「埋蔵文化財保護行政基礎講座」に1名が参加した(表21)。

① 職員専門研修

今年度の職員専門研修(表20)は、文化庁文化財部記念物課の川畑純氏を講師に招き、11月21・22日に研修を行った。1日目は「埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入について」、2日目は「古墳の研究と保存・活用」と題し、埋蔵文化財調査に係るデジタル技術導入に向けての基本的な考え方や古墳の研究成果と行政的な保存活用の課題について講義を行った。また、県内市町村の文化

2. 指定管理事業

財担当者にも参加を呼びかけ、南国市、香南市、四万十市から担当者8名の参加があった。

② 埋蔵文化財担当者研修

本年度は、全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会に2名が参加し、管理者部会では職場における労働環境及び関連制度、調査部会では知多半島の製塩遺跡などについて研修を受けた。また、文化庁主催の「埋蔵文化財保護行政基礎講座」に1名が参加し、埋蔵文化財保護行政の推進と、文化財を活かした個性豊かで魅力的な地域づくりの創造を行うために必要な知識の向上を図った(表21)。



写真15 職員専門研修

(6) 講師等職員の派遣

県内外の施設及び団体からの講師や活動指導者等の依頼に対し、埋蔵文化財広報普及の観点からできる限り対応することとして、本年度は3件(表23)の派遣を行った。

(7) 遺物の再整理事業等

埋蔵文化財の有効活用を目的に、報告書に掲載された遺物の再整理等を行い、遺物の有効活用を図るため出土遺物の再整理を行った。今年度の照合遺物点数は2,103点、修復点数は349点であった。

表20 平成29年度職員専門研修

No.	研修内容	開催日	講師名	所属・役職
1	「埋蔵文化財保護行政におけるデジタル技術の導入について」 「古墳の研究と保存・活用」	平成29年 11月21・22日	川畑 純	文化庁文化財部記念物課 調査官

表21 平成29年度埋蔵文化財担当者研修

No.	研修名	研修場所	研修期間	研修者
1	平成29年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	愛知県名古屋	平成29年11月16・17日	松田 直則 下村 裕
2	平成29年度埋蔵文化財保護行政基礎講座	福岡県福岡市	平成30年1月31日～2月2日	久家 隆芳

表22 平成29年度職員自主企画研修

No.	研修名	研修場所	研修期間	研修者
1	先進地に学ぶ広報普及活動 ～石川県埋蔵文化財センターの出前考古学教室や ものづくり体験教室～	石川県金沢市	平成29年11月20～22日	藤野 明弘
2	江戸時代の陶磁器について	滋賀県甲賀市 愛知県名古屋市・ 土岐市・瀬戸市 東京都多摩市	平成29年12月12～15日	徳平 涼子

表23 平成29年度講師派遣・調査指導等実績一覧

日・期間	派遣職員	依頼元	内容	備考
平成29年10月24日 ～ 11月21日	松田 直則 池澤 俊幸 久家 隆芳	高知県立岡豊高等学校	「地歴課題研究」講師(6講座)	高知県立 岡豊高等学校
平成29年10月29日	久家 隆芳	南国市立領石	「領石口ミノヲ谷古墳について」講師	南国市立 領石公民館
平成30年2月18日	久家 隆芳	徳島県立埋蔵文化財センター	「アワコウコ楽講座 四国の埴輪」講師	徳島県立 埋蔵文化財センター

表24 平成29年度会議等参加者一覧

No.	参加会議等	参加日	参加者
1	平成29年度第1回「統・発掘へんろ」愛媛会場展示・実行委員会	平成29年4月25・26日	久家隆芳
2	平成29年度第1回全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会(山口市)	平成29年5月11・12日	松田直則・和田安弘 吉成承三
3	第38回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会(横浜市)	平成29年6月15・16日	松田直則・和田安弘 吉成承三
4	平成29年度第2回「統・発掘へんろ」高知会場展示・実行委員会	平成29年7月13・14日	池澤俊幸・久家隆芳
5	平成29年度第3回「統・発掘へんろ」香川会場展示・実行委員会	平成29年9月29日	池澤俊幸
6	平成29年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 中国・四国・九州ブロック会議(北九州市)	平成29年10月5・6日	松田直則・和田安弘 坂本裕一
7	平成29年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会(名古屋市)	平成29年11月16・17日	松田直則・下村裕
8	平成29年度第2回全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会(東京都)	平成29年11月30日・12月1日	松田直則・和田安弘 吉成承三
9	平成29年度第4回「統・発掘へんろ」徳島会場展示・実行委員会	平成30年1月10日	池澤俊幸・久家隆芳
10	平成29年度第5回「統・発掘へんろ」徳島会場撤収・実行委員会	平成30年3月22日	池澤俊幸・久家隆芳

(8) その他

① 共催事業

高知市教育委員会との共催で行った移動展の他、親子考古学教室は、共催や後援を各教育委員会から得て実施した。また、企画展、巡回展、特別展については、マスコミ各社の後援を得て実施した。

② 各種イベントへの参加・協力

今年度は、財団本部が主催している「ワークショップ@Bunkazaidan こどもクラブ」では、銅鏡づくり、土器のレプリカ立体パズル、展示、クイズラリー、古代衣装体験、着ぐるみと触れ合い、DVD鑑賞など多くの活動を行い好評で大型商業施設が会場であることもあり、家族連れや子どもたちを中心に162人に及ぶ来場者を得ることができた。

また、「こうち漫画フェスティバルまんさい2017」に当センターのキャラクター「まいちゃん」の着ぐるみと職員が参加し、「ゆるキャラステージ」で県内の代表的な「ゆるキャラ」と並んで本センターのPRをおこなうとともに、「ゆるキャラストリート」でイベント参加者と交流し人気を博した。

その他、当センター主催以外のイベントにも参加した。県ならびに公益財団法人高知県産業振興センター主催の「第6回ものづくり総合技術展」では勾玉づくりを行い、定員40人をはるかに超える参加を得られた。

その他のイベント参加には出前考古学教室の一環として参加し、高知職業能力開発大学校(ポリテ

2. 指定管理事業

クカレッジ)主催の「ものづくりフェスタ 2017」では銅鏡づくり, 横倉山自然の森博物館主催の「夏休み博物館教室」では勾玉づくりを行った。

これらの館外のイベントについては, アンケートも実施した。初めて参加した人がほとんどで当センターの存在を知らない人がほとんどであった。このような活動が当センターへの来館のきっかけとなっているとともに, 地域の歴史や遺跡への興味関心に繋がるきっかけとしてよい機会となっている。



写真16 ワークショップ@Bunkazaidan ともクラブ

IV 各遺跡の発掘調査概要

1. 東野遠山遺跡(17-2KHT)

所在地 香南市野市町東野

立地 河岸段丘状

時代 古代～近世

調査期間 平成29年5月1日～10月13日

調査面積 4,500㎡

担当者 小島義雄・筒井三菜

調査内容 国土交通省の予定している高知東部自動車道(南国芸芸道路)の建設工事に伴い、工事によって影響をうける部分について発掘調査を実施した。東野遠山遺跡は、平成28年度に高知県

教育委員会が実施した試掘確認調査によって新たに発見された遺跡で、香南のいちICの西側に位置し、烏川の左岸沿いに立地している。

発掘調査の結果、掘立柱建物跡2棟、土坑68基、溝跡31条、性格不明遺構14基と多数のピットを検出した。遺物は土師器、須恵器、土師質土器、陶磁器、石製品等が出土した。古代から中世では掘立柱建物跡、土坑、溝跡、柱穴を検出した。土坑は円形を呈し、径が約1.0mを測るものを数基確認することができた。溝跡は調査区の南部において調査区を東西方向に横断するものと、南北方向に約23m延び、さらに西方向に曲がり約20m延びる逆L字状を呈した溝跡を確認した。この逆L字状の溝跡の埋土からは土師質土器杯数点が重なった状態で出土しており、これらの形態等から古代末から中世前期に位置づけられると考えられる。また、調査区南側を東西に延びる溝の埋土からも土師質土器等が出土している。掘立柱建物跡は2棟を検出し、その内の1棟は、桁行5間、梁行2間の規模を測る東西棟で、調査区を東西方向に横断する溝跡を切っており、中世から近世にかけての遺構の可能性が考えられる。近世は溝跡と土坑等を検出した。土坑には周囲に河原石を巡らせ、内側にハンダを施したハンダ土坑がみられ、2基並んだ形態のものもあった。

調査によって検出された遺構の密度は調査区南部にいくに従い高くなっているため、さらに南側に遺構の広がりが推定される。

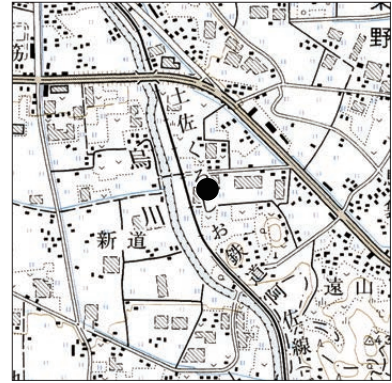


図9 東野遠山遺跡位置図



写真17 遺構完掘状態

2. 高田遺跡

2. 高田遺跡(17-3KT)

所在地 香南市野市町下井

立地 河岸段丘状

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成29年10月5日～平成30年2月6日

調査面積 1,500㎡

担当者 小島義雄・筒井三菜

調査内容 高田遺跡は、物部川の河口域の左岸に立地する遺跡である。国土交通省の予定している高知東部自動車道(南国安芸道路)の建設工事に伴い、発掘調査を実施した。発掘調査は平成27年度より実施され、本年度で3年目をむかえた。平成27・28年度

の調査では弥生時代後期と奈良・平安時代に属すると考えられる竪穴建物跡9軒、土器棺墓6基、掘立柱建物跡50棟、土坑74基の他、溝跡、柱穴を多数検出した。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦質土器、陶磁器、土製品、石製品、金属製品などがみられ、土師器では表面に赤色塗彩を施した皿や盤などの一括資料が出土した。また、硯や緑釉・灰釉陶器、越州窯青磁、帯金具が出土するなど貴重な発見となった。

本年度の発掘調査は高田遺跡の東側にあたる

V-2区とⅦ-2区で実施した。調査の結果、竪穴建物跡3軒、掘立柱建物跡4棟、土坑50基、溝跡23条、性格不明遺構15基の他、多数のピットを検出した。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶磁器、土製品、金属製品などが出土した。弥生時代の主な遺構は竪穴建物跡で調査区南西部において検出した。その内、一辺約5mの隅丸形状を呈した竪穴建物跡の床面からは、支柱穴及び土坑等が確認できた。この竪穴建物跡は西側に隣接するV-1区(平成28年度の調査区)において確認された竪穴建物跡の北東に位置し、これらは同時期に存続していたものと考えられる。古代では調査区の中央から南部において掘立柱建物跡2棟を確認した。掘立柱建物跡の規模は桁行3間、梁行2間を測るSB1と、さらにこの南側から、東西方向に2間、南北方向に1間分の建物跡(SB2)を検出した。このSB2は調査区外に続いているものと考えられ、さらに南側に遺構の広がりか推定される。遺物では、須恵器杯底部や蓋の内面に「□木」・「休」と墨書を施したもの、高台内に○に「上」あるいは○に「土」と墨書が確認できる土師質土器碗がみられた。また、柱穴からは鋤形状を呈した土製品が出土し、祭祀等に使用された可能性が考えられる。

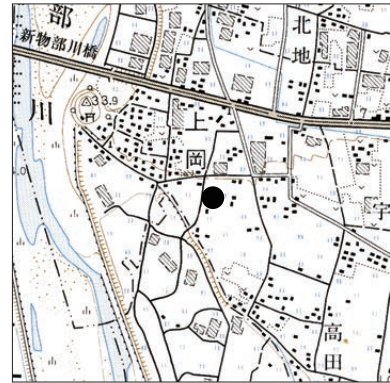


図10 高田遺跡位置図



写真18 遺構完掘状態

3. 若宮ノ東遺跡(17-1NW)

所在地 南国市篠原

立地 台地端部

時代 弥生時代～近世

調査期間 平成29年4月15日～12月26日

調査面積 2,710㎡

担当者 坂本憲昭・矢野雅子

調査内容 若宮ノ東遺跡は南国市篠原に所在し、長岡台地から平野部に続く変換地点に位置する。高知県が計画している都市計画道路高知南国線建設に伴い、事前に工事の影響を受ける部分の発掘調査を平成28年から実施しており、今年度が調査の2年目にあたる。

今年度の調査は、昨年度調査部分の東側と西側の調査区を設定し行った。調査では昨年度と同様に弥生時代後期から近世にかけての遺構や遺物を検出したが、遺構の密度は西側調査区では低く、東側調査区で高くなっていった。遺構、遺物は弥生時代末から古墳時代初頭と古代の時期が中心であった。

弥生時代末から古墳時代初頭の遺構では28棟の建物跡や壺棺墓などを検出した。竪穴建物跡は

1軒が昨年度調査区の西側から、27軒が東側から検出しており、弥生時代末から古墳時代初頭の集落は東西約300m以上の広がりを持ち、さらに東に広がっていることが確認できた。竪穴建物跡の平面形態は方形～隅丸方形、多角形、円形と多岐にわたる。中でも一辺が9.2mの方形住居跡は、県内で検出した方形住居跡でも最大級であり注目される。また、ST3は床面に方形の溝状の遺構があり四隅からは柱穴が検出され、南西隅の柱穴からは完形の甕が据えられた状態で出土しており、廃棄もしくは柱の抜き取りに関わる祭祀が行われた可能性を窺わせる。出土遺物は昨年度に比較すると少ないが、同時期の土器以外にも石包丁、摺石などの石器が出土し、鉄器では鉄鏝が出土している。

古代では掘立柱建物跡が7棟検出されているほか、同時期と考えられる多くの柱穴が確認された。検出した掘立柱建物跡はいずれも軸方向が北から12～13度東に傾いており、当地域に残る条里地割りと一致している。掘立柱建物跡の柱穴は平面形状方形で規模が大きい約1.0mのものと平面規模が小さな約0.7m～0.8mのものに分けることができる。小さな柱穴から構成される掘立柱建物跡から完形復元できる土師器皿が複数出土しており注目される。特にP320からは20個体を超える土師器皿が出土し、輪花皿の見込みに「作」が刻書されているものも含まれる。その他では炭化米も出土しており、祭祀が行われたと考えられる。出土した土師器には回転糸切り痕が残るものも含まれており10世紀末～11世紀代と考えられる。

来年度以降も継続調査が予定されており、今までの調査と同じく弥生時代、古代の遺構遺物の検出が予想され、更に資料が充実することによって状況が明らかになっていくものと考えられる。



図11 若宮ノ東遺跡位置図



写真19 遺構完掘状態

4. 高知城跡北曲輪

4. 高知城跡北曲輪 (17-4KK)

所在地 高知県高知市丸ノ内2丁目34

立地 沖積地

時代 古代～近世

調査期間 平成29年8月30日～12月15日

調査面積 1,300㎡

担当者 徳平涼子・下村裕

調査内容 調査対象地区は史跡高知城跡の北側に位置し、大高坂山の丘陵裾部に立地する。17世紀中葉の『寛文己酉高知絵図』では北曲輪に「御作事場」「御米蔵」「御武器蔵」等の藩の施設が並んでいる。

今回の調査は保健衛生総合庁舎建築に伴うもので、平成27年度と平成29年度の2箇年に分けて調査を行った。平成27年度の調査では、江戸時代前期から後期にかけての掘立柱建物跡や土坑、溝跡など高知城跡に関連するとみられる遺構が確認された。土坑からは9tを量る瓦が出土し、藩主山内家の家紋である三ツ葉柏文の軒丸瓦や軒平瓦や鬼瓦、烏袷瓦もみられた。これらの多量の瓦は明治期に高知城を公園化する際に廃棄されたものとみられる。

平成29年度の調査地は著しく攪乱を受けており、江戸時代の整地層が確認できた範囲は調査地北部と南部の一部のみであった。確認された遺構は、前回の調査で確認された溝跡の続きや瓦の廃棄土坑、井戸跡などである。この溝跡は検出長43.8m、検出幅2.6mを測る南北溝跡で、『寛文己酉高知絵図』に描かれている溝とみられ、高知城跡の施設の一部と考えられる。

また、今回の調査では平成27年度の調査では確認されていなかった古代から中世にかけての遺構を検出した。検出されたのは大高坂山に近い箇所で、丘陵に沿って平行に伸びる大規模な溝跡が3条検出された。そのうち1条は出土遺物より11～12世紀とみられ、検出長約30m、幅約2mを測る大規模な溝跡である。出土遺物には土師器や須恵器、緑釉陶器、白磁、楠葉型瓦器碗、瓦などがみられる。残りの2条からは8～15世紀の遺物が出土しており中世の遺構とみられるが、うち1条は11～12世紀の溝跡とほぼ同規模で併走していることから、同時期あるいは時を経ずして機能していた可能性がある。今回の調査区の西で平成18年度に高知市教育委員会が行った北曲輪の調査や、高知城跡南東部に位置する弘人屋敷跡でも同時期の遺構がみられ、大高坂山の北側から東側の広い範囲で古代の遺構が広がっていた可能性がある。

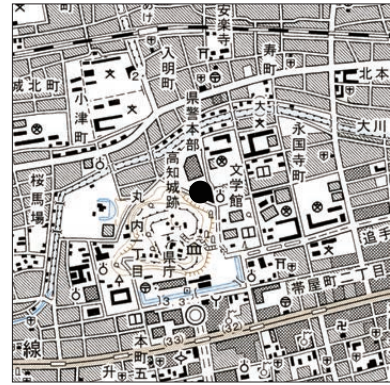


図12 高知城跡北曲輪位置図



写真20 遺構完掘状態

V 条例・規則等

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(平成17年7月19日条例第55号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成3年高知県条例第3号)の全部を改正する。

(設置)

第1条 埋蔵文化財を調査研究し、及び保存するとともに、公開し、及び活用することにより、埋蔵文化財に関する知識を深め、もって県民文化の振興に寄与するため、高知県立埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を南国市に設置する。

(指定管理者による管理等)

第2条 センターの管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定に基づき、法人その他の団体であつて、教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)にこれを行わせるものとする。

2 前項の規定により指定管理者にセンターの管理を行わせる場合においては、教育委員会は、指定管理者の指定を受けようとするものを公募するものとする。ただし、センターの適正な管理を確保するため公募を行わないことについて相当の理由がある場合は、教育委員会が適当と認める法人その他の団体を指定管理者の候補者として選定することができる。

(休館日)

第3条 センターの休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日並びに国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (2) 12月29日から翌年の1月3日まで

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する休館日を変更し、又は臨時に休館日を定めることができる。

(利用時間)

第4条 センターの利用時間は、午前8時30分から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会が特に必要があると認めたとき又は指定管理者が必要があると認める場合であつてあらかじめ教育委員会の承認を得たときは、同項に規定する利用時間を変更することができる。

(センターの利用)

第5条 センターを利用する者(以下「利用者」という。)は、センターに保存されている埋蔵文化財及び保管されている埋蔵文化財に関する資料(次条において「埋蔵文化財等」という。)の観覧、閲覧、撮影又は模写等を行うことができる。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(遵守事項)

第6条 利用者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) センターの施設、設備若しくは埋蔵文化財等(以下「設備等」という。)を損傷し、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他の利用者に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、センターの管理上必要な指示に反する行為をしないこと。

(損害賠償義務)

第7条 利用者又は指定管理者は、故意又は過失によりセンターの設備等を損傷し、又は滅失したときは、これによって生じた損害を知事の認定に基づき賠償しなければならない。

(指定管理者が行う業務)

第8条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) センターの設備等の維持管理に関する業務
- (2) センターの設置の目的を達成するための事業の企画及び運営に関する業務

(指定管理者の指定の申請)

第9条 第2条第2項本文の規定により指定管理者の公募を行った場合において、同条第1項に規定する指定管理者の指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に次に掲げる書類を添えて、当該指定について教育委員会に申請しなければならない。

- (1) 前条各号に規定する業務(以下「業務」という。)に係る事業計画書
- (2) 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして教育委員会規則で定める書類

(指定管理者の指定等)

第10条 教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当するもののうちから指定管理者の候補者を選定するものとする。

- (1) 前条第1号の事業計画書(以下この項において「事業計画書」という。)によるセンターの管理が県民の平等利用を確保することができるものであること。
- (2) 事業計画書の内容がセンターの効用を最大限に発揮させるとともに、その業務に係る経費の縮減が図られるものであること。
- (3) 事業計画書に沿った業務を安定して行う物的能力及び人的能力を有しており、又は確保できるものであること。
- (4) 事業計画書による業務の実施により、県民の埋蔵文化財に関する知識を深め、県民文化の振興に寄与することができるものであること。

2 教育委員会は、第2条第2項ただし書の規定に基づき又は前項の規定により指定管理者の候補者を選定したときは、議会の議決を経て指定管理者として指定するものとする。

3 指定管理者は、その名称、主たる事務所の所在地その他教育委員会規則で定める事項に変更があったときは、遅滞なく、その旨を教育委員会に届け出なければならない。

(事業報告書の作成及び提出)

第11条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、次に掲げる事項を記載した事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。ただし、年度の途中において、第13条第1項の規定に

基づき指定を取り消されたときは、その取り消された日から起算して30日以内に当該年度の当該日までの間の事業報告書を提出しなければならない。

- (1) 業務の実施状況及び利用者の利用状況
- (2) 業務に係る経費等の収支状況
- (3) 前2号に掲げるもののほか、指定管理者によるセンターの管理の実態を把握するために教育委員会が必要であると認めるもの

(業務報告の聴取等)

第12条 教育委員会は、センターの管理の適正を期するため、指定管理者に対して、業務及びその経理の状況に関し定期に又は必要に応じて臨時に報告を求め、実地に調査し、又は必要な指示をすることができる。

(指定の取消し等)

第13条 教育委員会は、指定管理者が前条の指示に従わないときその他指定管理者による管理を継続することが適当でないと認めるときは、その指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ずることができる。

2 前項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合において指定管理者に損害が生じても、県はその賠償の責めを負わない。

(指定等の告示)

第14条 教育委員会は、次に掲げる場合には、その旨を告示するものとする。

- (1) 第10条第2項の規定による指定をしたとき。
- (2) 第10条第3項の規定による名称又は主たる事務所の所在地の変更に係る届出があったとき。
- (3) 前条第1項の規定に基づき指定を取り消し、又は期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命じたとき。

(原状回復義務)

第15条 指定管理者は、その指定の期間が満了したとき又は第13条第1項の規定に基づき指定を取り消され、若しくは期間を定めて業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった設備等を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、教育委員会の承認を得たときは、この限りでない。

(秘密保持義務)

第16条 指定管理者又は業務に従事している者は、高知県個人情報保護条例(平成13年高知県条例第2号)の規定を遵守し個人情報を保護するとともに、業務に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、若しくは指定を取り消され、又は業務に従事している者がその職務を退いた後においても、同様とする。

(委任)

第17条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

1. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

附則

(施行期日)

1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例

(以下「改正後の条例」という。)第2条第1項に規定する指定管理者の指定及び当該指定に関し必要なその他の行為は、この条例の施行の日前においても、改正後の条例第9条並びに第10条第1項及び第2項の規定の例により行うことができる。

(経過措置)

3 この条例の施行の際現にこの条例による改正前の高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例第2条の規定に基づき委託している高知県立埋蔵文化財センターの管理については、平成18年9月1日(同日前に改正後の条例第10条第2項の規定による指定をした場合は、当該指定の日)までの間は、なお従前の例による。

2. 高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則をここに公布する。

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則

(平成17年7月29日教育委員会規則第30号)

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例施行規則(平成3年高知県教育委員会規則第5号)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規則は、高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号。以下「条例」という。)第17条の規定に基づき、高知県立埋蔵文化財センター(第4条において「センター」という。)の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(指定管理者の指定の申請に必要な書類)

第2条 条例第9条の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。

2 条例第9条第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 条例第8条各号に規定する業務に係る収支予算書
- (2) 定款、寄附行為、規約その他これらに類する書類
- (3) 法人にあっては当該法人の登記事項証明書、法人以外の団体にあっては代表者の住民票の写し
- (4) 前項の申請書を提出する日の属する事業年度及び前事業年度に係る財務諸表等経営の状況を示す書類
- (5) 前各号に掲げる書類のほか、教育委員会が必要があると認める書類

(指定管理者に係る変更届出事項)

第3条 条例第10条第3項の教育委員会規則で定める事項は、指定管理者の代表者の氏名とする。

(委任)

第4条 この規則に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

(施行期日)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な書類)

2 条例附則第2項の規定に基づき、条例の施行の日前において行う指定管理者の指定の申請に必要な書類については、第2条の規定の例による。

別記様式(第2条関係)

指定管理者指定申請書

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

3. 高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者の指定

高知県教育委員会指令24高文財第698号

公益財団法人高知県文化財団 様

高知県立埋蔵文化財センターの設置及び管理に関する条例(平成17年高知県条例第55号)第10条第2項の規定により、高知県立埋蔵文化財センターの指定管理者として指定します。

平成24年12月27日

高知県教育長 中澤 卓史

1 施設の名称

高知県立埋蔵文化財センター

2 指定期間

平成25年4月1日から平成30年3月31日まで

高知県埋蔵文化財センター年報

第27号

2017年度

発行日 平成30年11月20日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
〒783-0006

高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671 Fax. 088-864-1423

URL. <https://www.kochi-maibun.jp/>

印刷 川北印刷株式会社

